唐土訓蒙圖彙 四

唐土訓蒙圖彙巻之六

名の下に和名を附

人事

此部は武藝よりして農家の樂事
傀儡鬮草百戯のあそびまでおさむく
のせて乃これおとくなし

9491 Freer Gallery of Art
Washington, D. C.

射法圖

實握弽つ圖

此法ハ弓と一ていに引そへて左乃肱を直みして弦月のことくふし弓をかゝめまふせ〳〵肩はくちのりく気の通りまひろきまたしとし

同上

掌心推射つ圖

此法ハ弓を引入て肱のまがり心と對し射の平らかなるを衡乃おとくにして弓ハ八分の勢ひすすなをにしたり

馬箭前圖

馬上にて縱さしとなし

同上

MADE IN JAPAN.

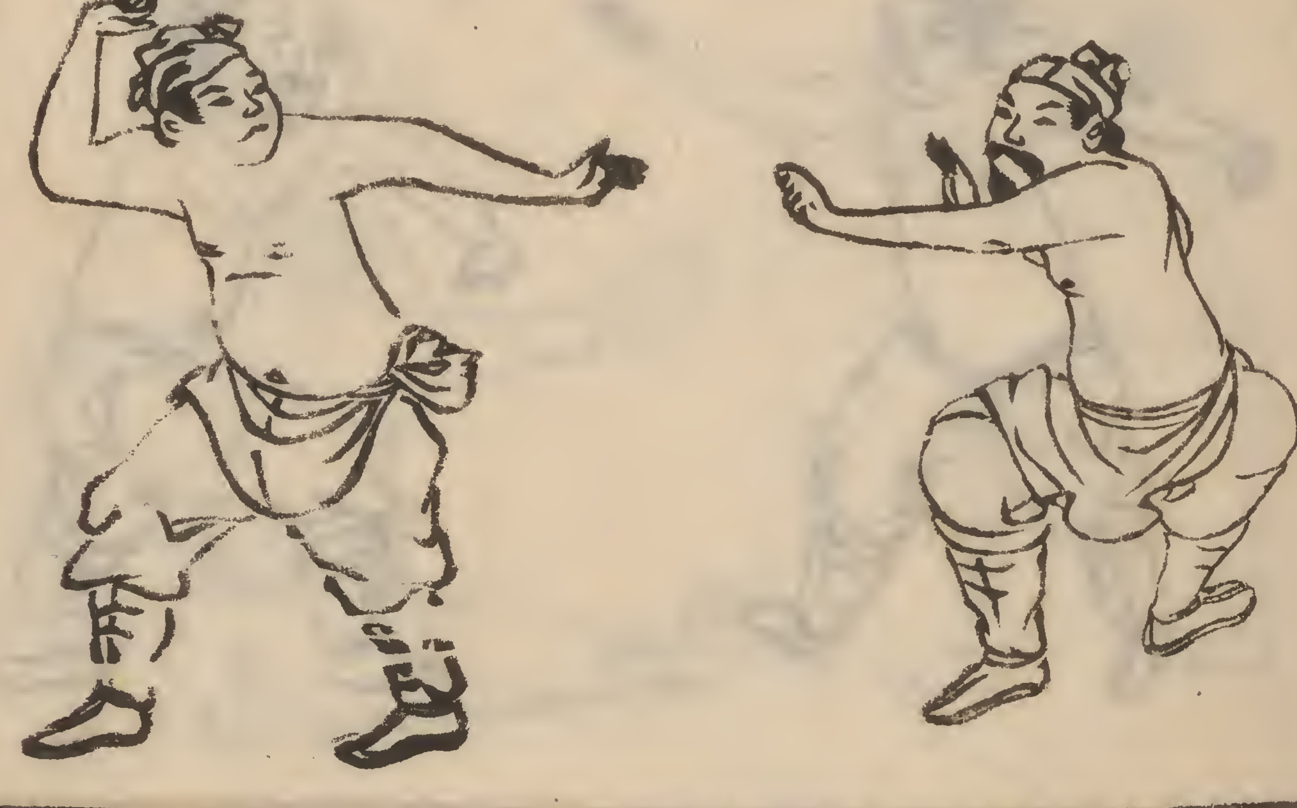
馬上箭圖

拳法圖一

和にいふやはらくてし
以下十六圖同事

拳法二

拳法三



拳法四

拳法五

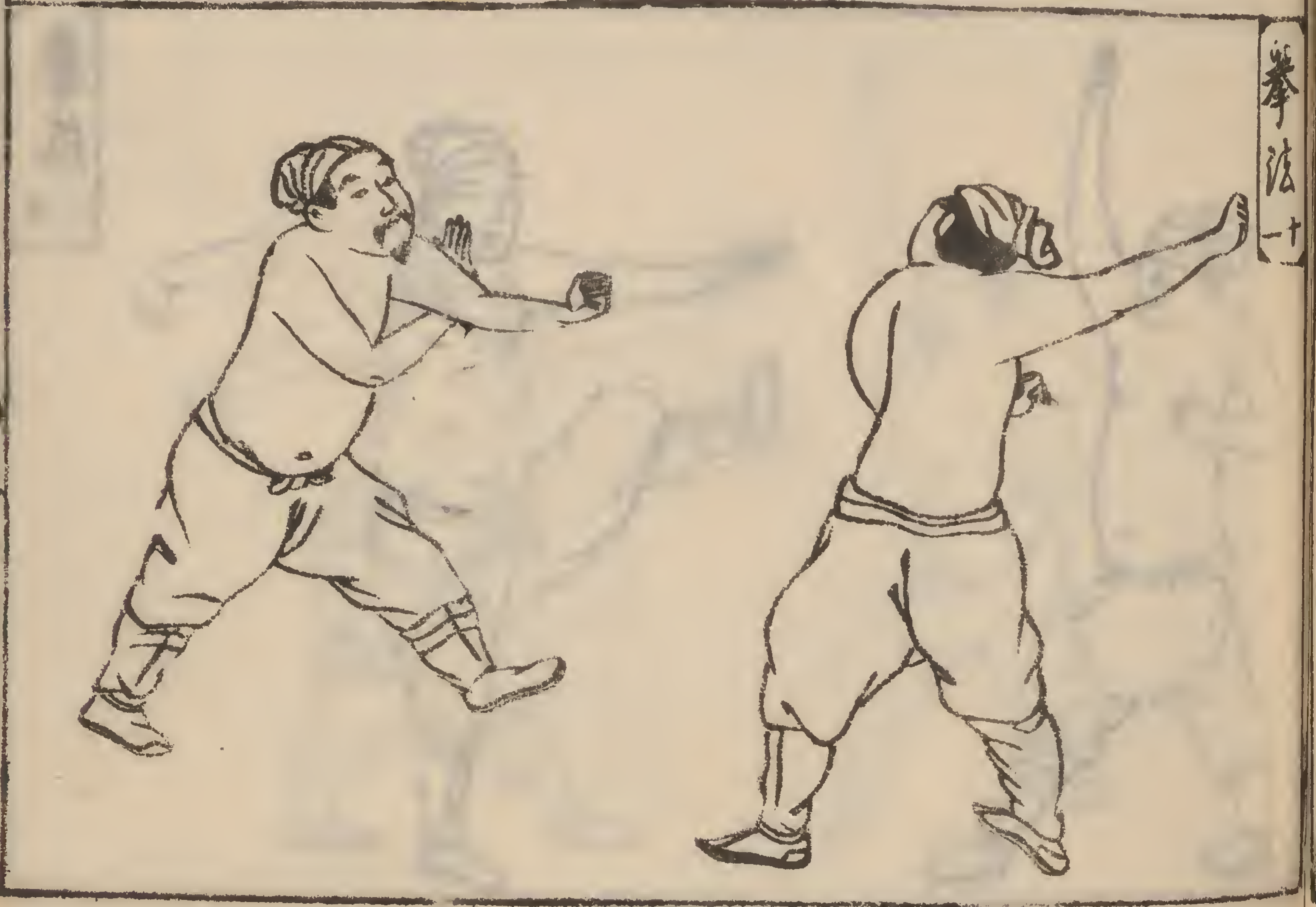
拳法六

拳法七

拳法八

拳法九

拳法十


拳法十一

拳法十二

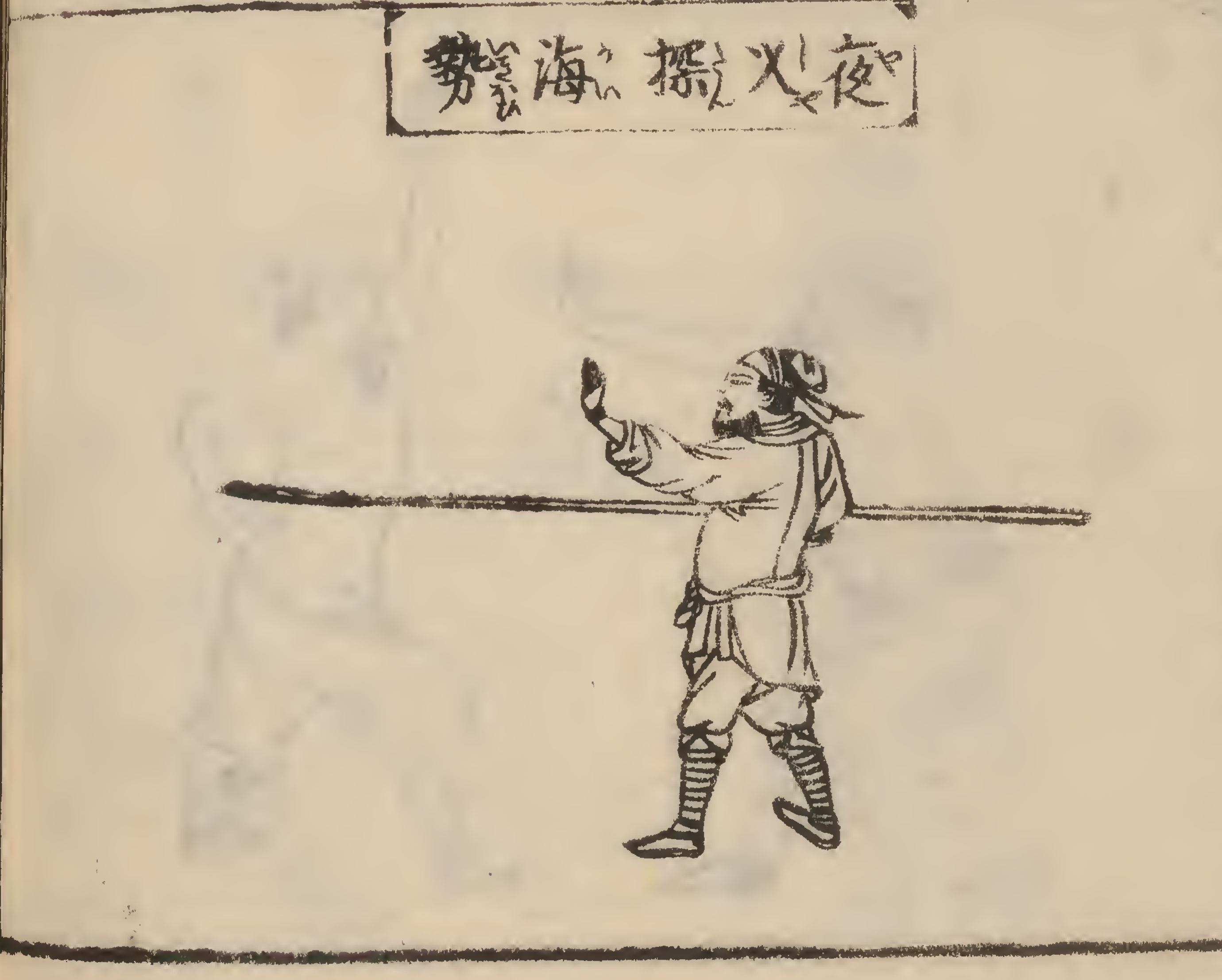
拳法十三

拳法十四

拳法十五

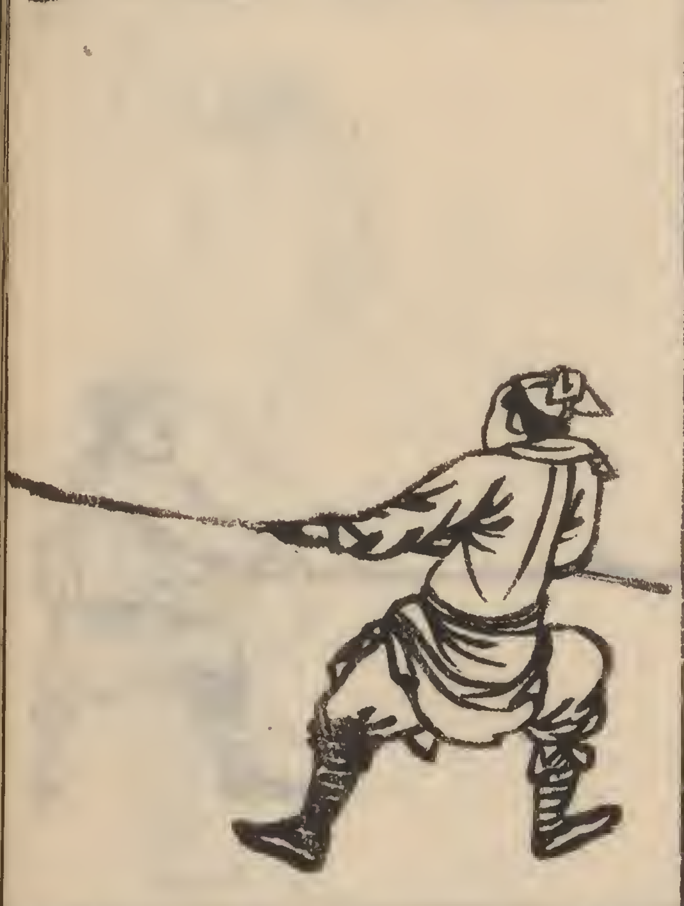
鎗法圖

和よりは鎗をつかふ人ことし



邊攔勢

跨劔勢



鐵幡竿勢

鋪地錦勢

朝天勢

滴水勢

鐵牛耕地勢

騎龍勢

唐土訓蒙圖彙 卷六

白猿拖刀勢

霊猫捉鼠勢

琵琶勢

太山壓卵勢

美人認針勢

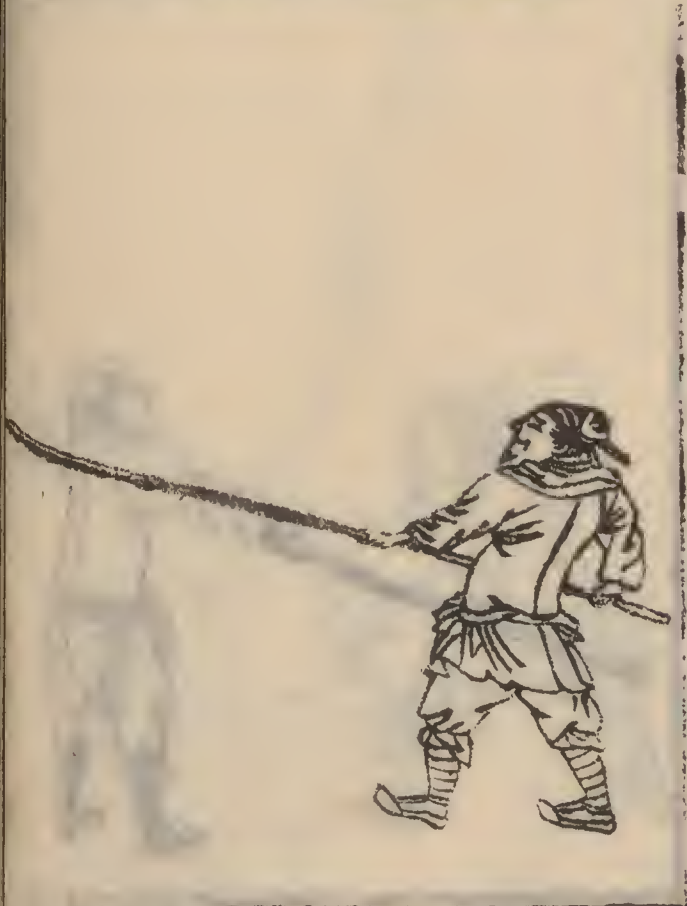
闖鴻門勢

蒼龍擺尾勢

伏虎勢

推山塞海勢

太公釣魚勢



鷂子撲鵪鶉勢

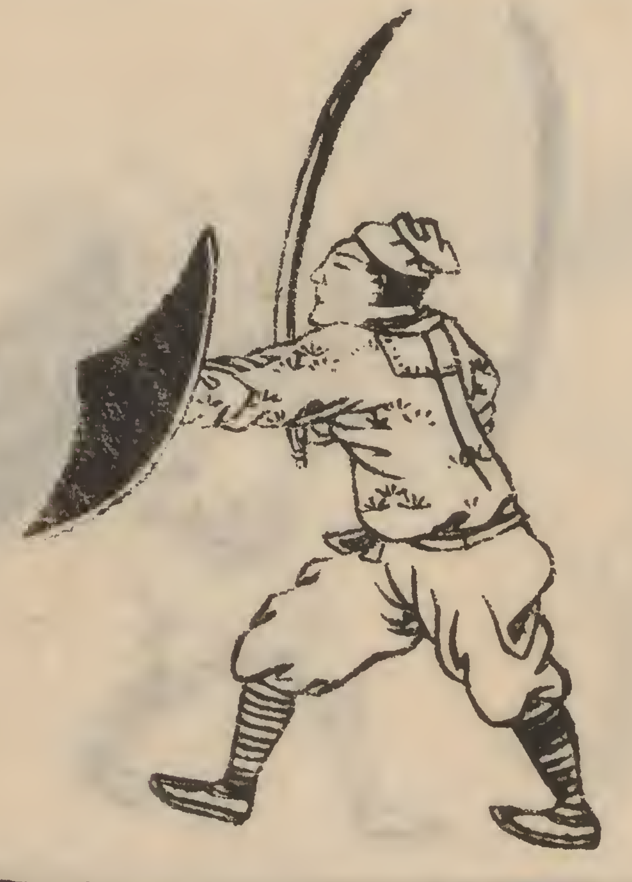
それ鎗ハ中華の昔義農氏干戈を造り軒轅槍を作り諸葛孔明始て木を以て槍とし鉄を以て頭とし其長二丈或竹を以て作る長二丈五尺蓋是日本の鑓と相似たり日本の鑓の字倭国の制する象にして鎗の術と同しくするものなり

習藤牌圖

牌ハタテなり 数術の数々

開扎衣勢

仙人指路勢



斜行勢

滾牌勢

躍歩勢

低平勢

金雞畔頭勢

埋伏勢

習狼筅圖

竹の枝をのこしたる枝まてつくり丈の長さにして敵の兵器をふせぐ器なりそのつかひの術なり

中平勢

騎龍勢

鉤開勢（こうかいせい）

架上勢（かじやうせい）

闘下勢（とうかせい）

拗歩退勢（やうほたいせい）

棍法圖

和より又棒とつかふことし

大當勢ノ圖

小當勢ノ圖

倭人捧盤勢ノ圖

大弔勢ノ圖

滴水勢ノ圖

齊眉殺勢ノ圖

走馬回頭勢ノ圖

直符送書勢ノ圖

倒頭勢ノ圖

上剃勢ノ圖

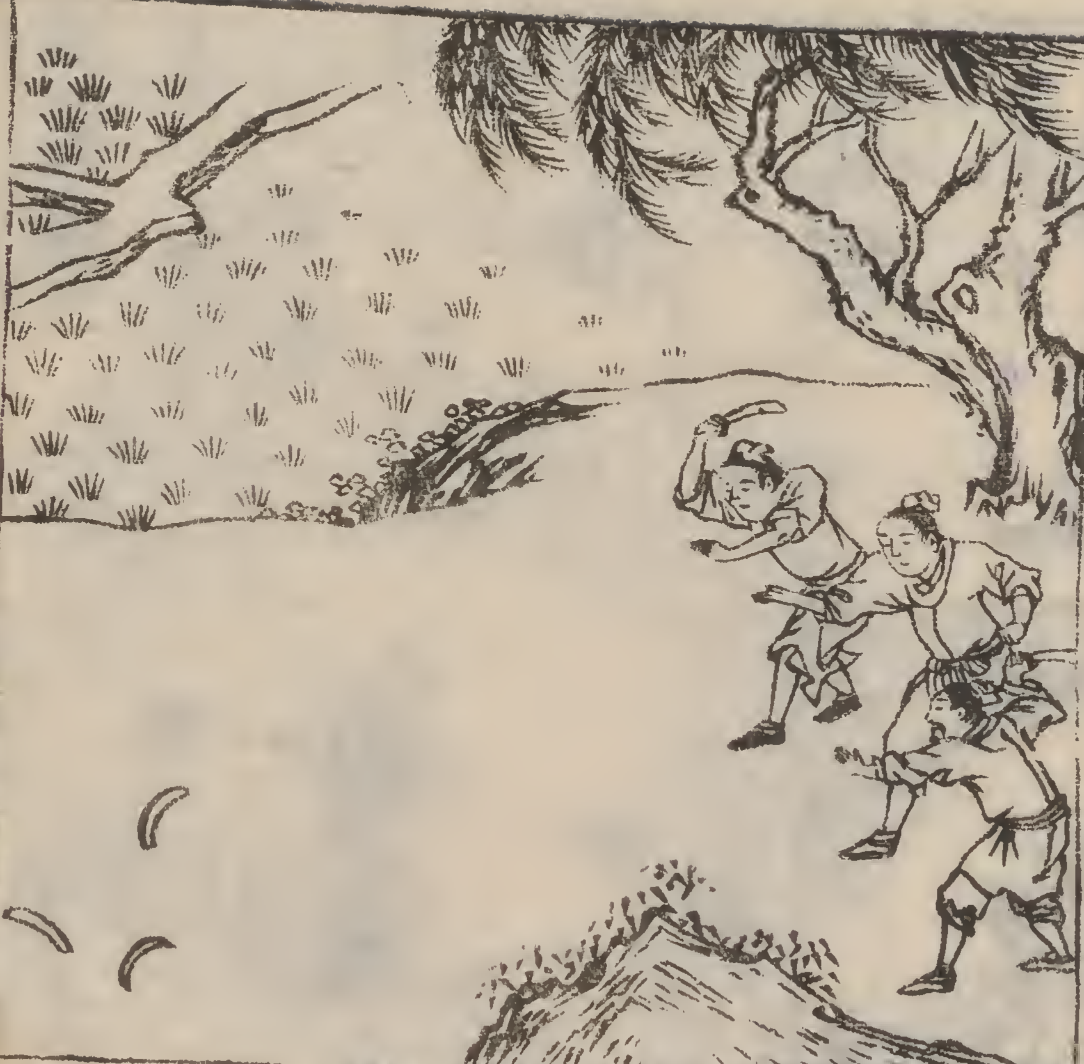
閃腰勢ノ圖

下穿勢ノ圖

下接勢の圖

[illegible]中[illegible]圖

撃壌圖 これ村民野老のたのしみとす
その具ハ木を以てつくり前廣く後
鋭長一尺四寸濶三寸其形履の
如し戯せんとする時先一の壌を道の
三四十歩に側て手中の壌を以て
うちなげてあたる者をとしとれ



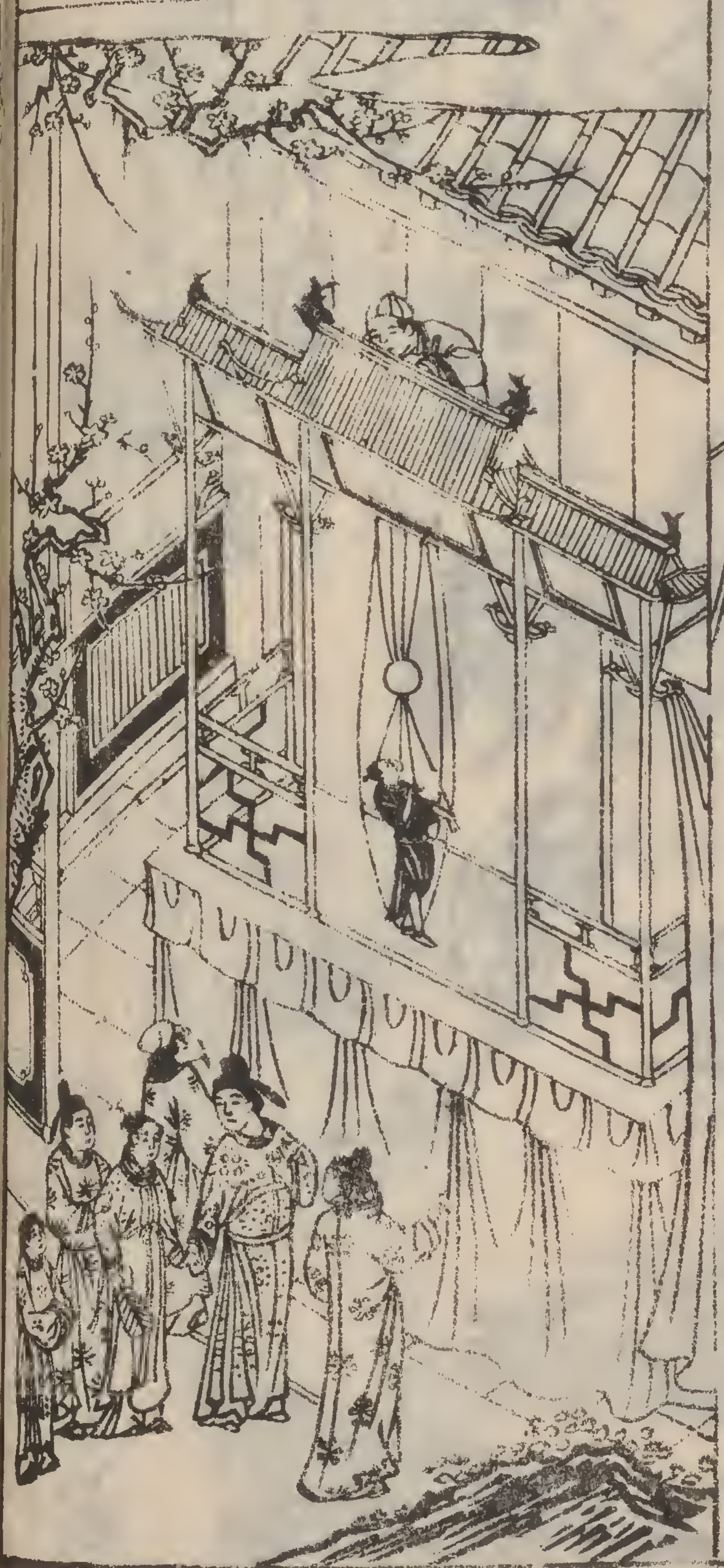
[illegible]鼓圖 [illegible]とハ田の草をとらうとし
その時笑語して勢を勤んことを
あハれうた鼓なり

高絙圖

あれ和らりいふはれまふりかおねきの類なり

傀儡圖

あれ和りいふたんこうんおそはいとうらかん類なりま



角觝圖

和にて角抵とはますふの拳の勢にてちからく

闘牛圖

うしとうしつきあはせてうしたたかふをいふなり

闘草圖

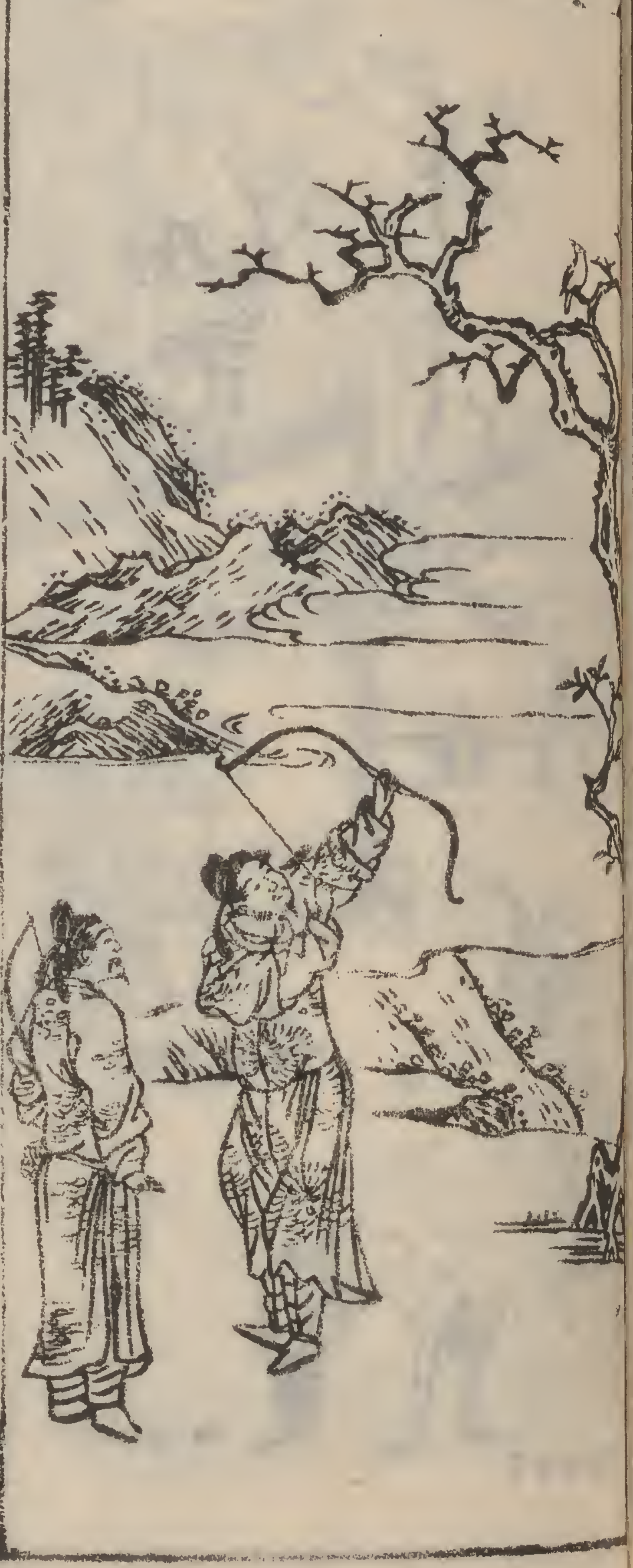
百の草をとりてあはせとして勝負をあらそふあそびなり

闘雞圖

にはとりをけ合せてあらそふ圖の出なり三月清明の節にはやりし

彈圖

和名はじきゆみといふ乃ことく古へは葬礼に死骸をまもる為し



蹴踘圖

和名まりまりをけるあそひ黄帝の時よりはしまる

呑劔圖

今いふぞうりうわらがしの戯なり

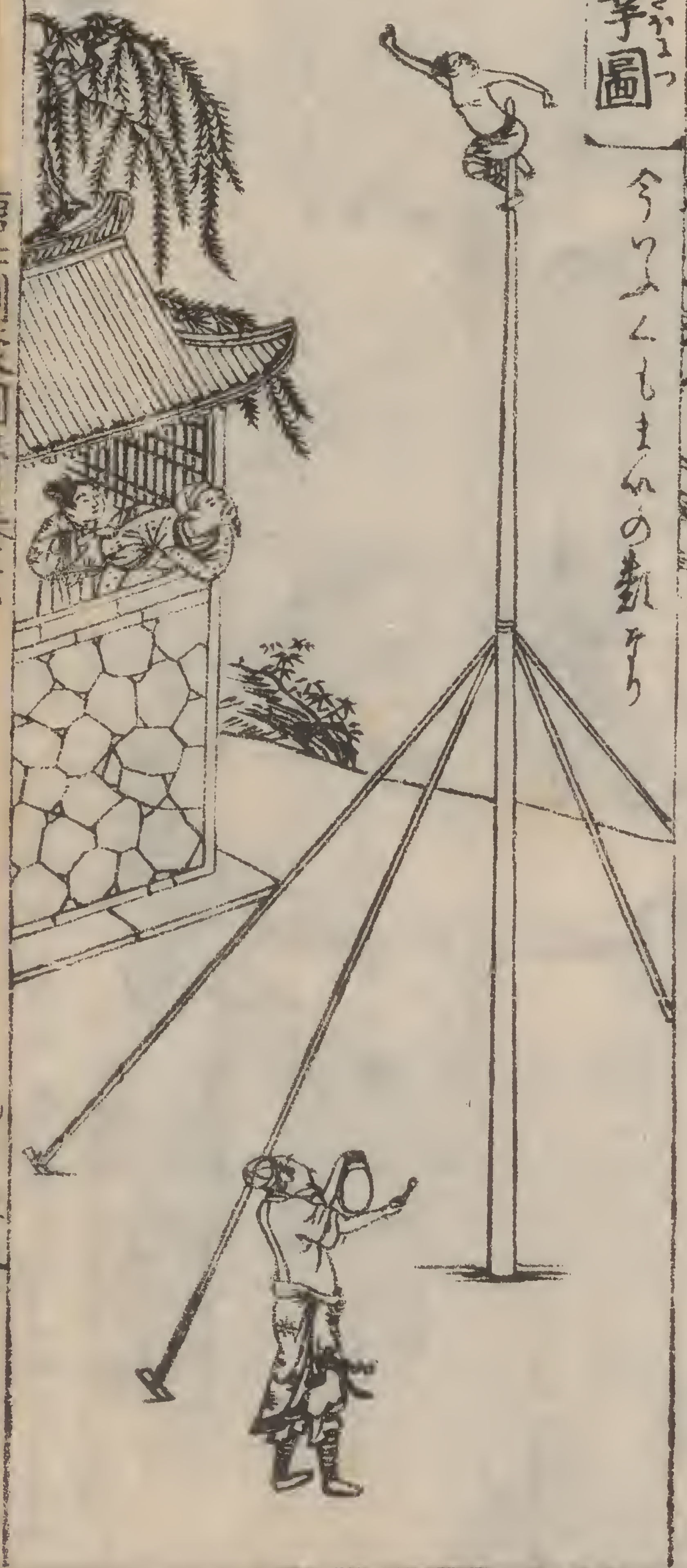
弄甌圖

今いふしれ玉とりの戯し

走火圖

縁竿圖

今いふくもまいの戯なり



鞦韆圖

北方戎狄寒食の節に至て はらかれとうれ 軽趫を ならふなり 後中国これにならふて 縄を木にかけて ひさのかせくあそふなり

唐土訓蒙圖彙巻之七

器用之一

器用

此部ハ上古の器よりはじめて農具兵器舟車筆硯文房の遊具までのせてわかれざるなし

卣

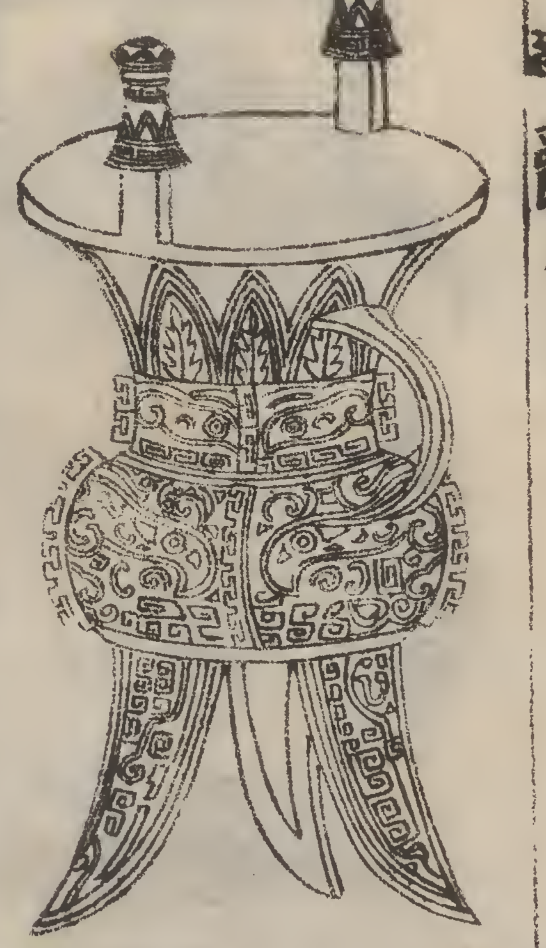
古器

上古神に酒をすゝむるうつはものなり

雉

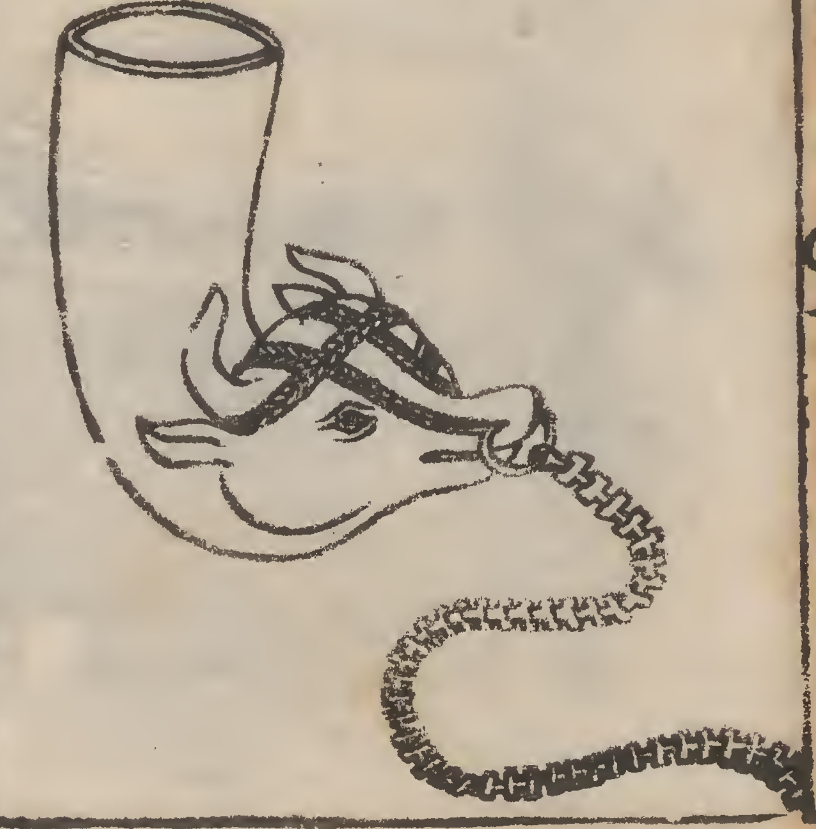
神をまつるところ酒を盛うつはもの也

斝 酒とりうつハものなり王の爵なり



角 これハ爵ち似して雙ざるを用ひさるさかづきなり

杯 酒三合とりる高さ二寸七分ふかさ二寸六分ふかわり二寸三分脚高さ三寸二分



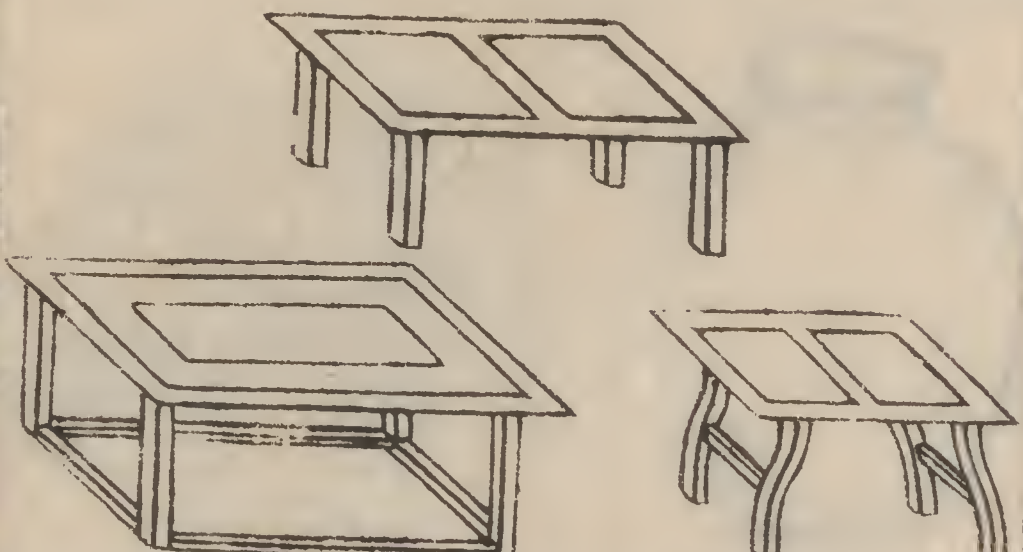
敦 黍稷をもりいるうつハものなり

鉶 豆といふ器に似てひさくうつハものなり羹をもるうつハなり

椇 商の世より俎なり枳椇の木の枝のかたちなりといふ

椀俎 長さ二尺四寸漆ぬりなり

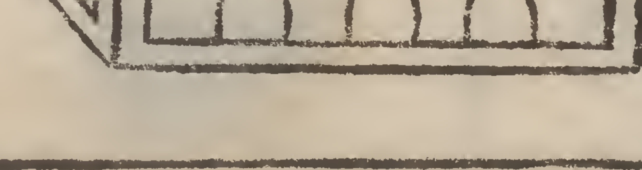
嶡俎 椀俎に似て横木あるものなりまつりの器なり

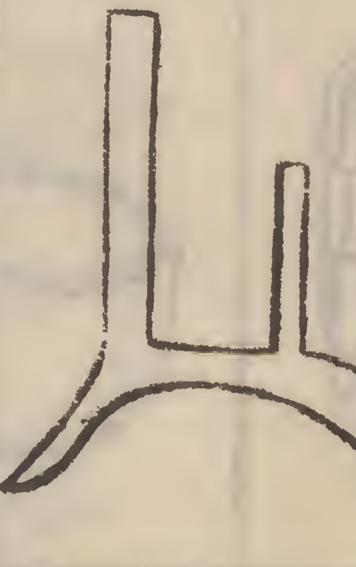


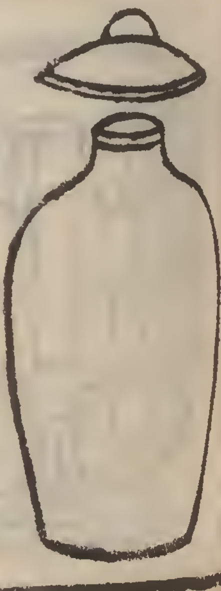
尾鋪 天と地をまつるに用ゆ中に五斗を受口の径一尺腹の高さ二寸

畢 肉をあぐるものなり

林示 長さ四尺廣さ二尺四寸足の高さ二尺三寸漆を以て中を赤くぬる太夫士の用ゆる一脚のものなり



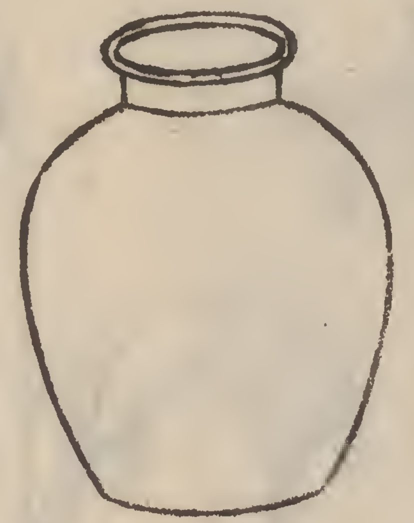


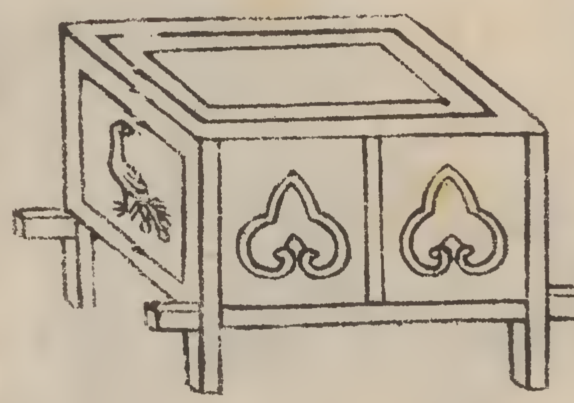


俎 長四尺廣さ二尺四寸深さ五寸饌を陳るものなりその式は案のごとくなり

罍 甒甒と實るもの足高一斛三斗を受ひ酒を汲むものなり

鉶 羹と盛るもの一斗と盛るもの也三足ありしく兩耳あり

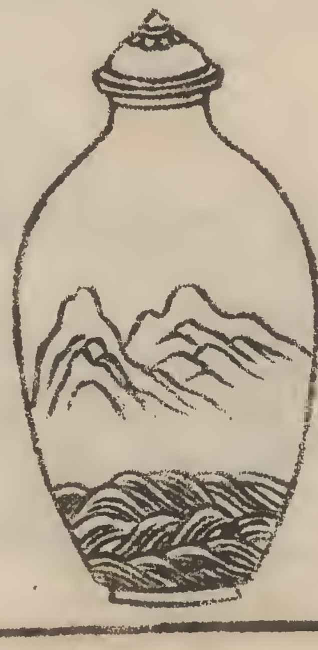


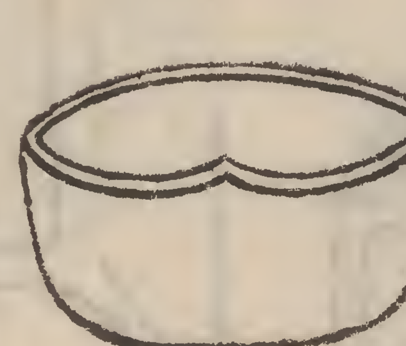


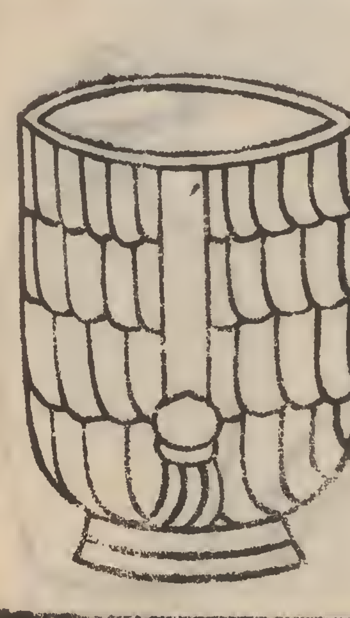
大罍 瓦と もつてこれを尊し社土の神をまつるに用ゆこれ土氣を尚へなり

瓢齎 門と まつるにこれを用ゆ其瓢を尊として門の害を除なり

蜃 山川 四方とまつるにもちゆ



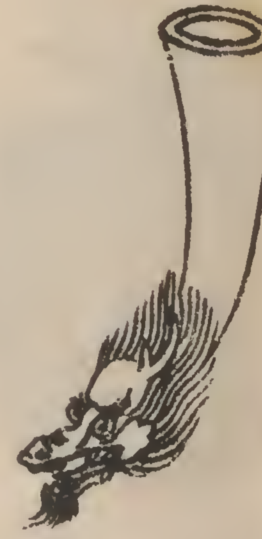


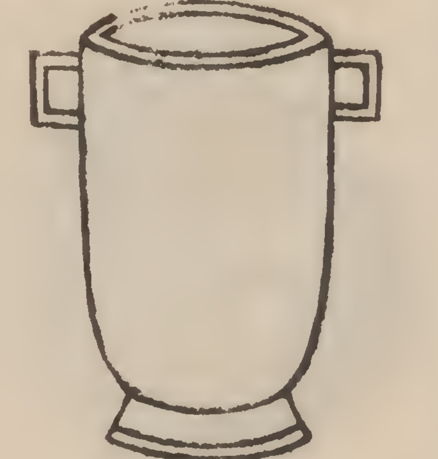


觥 兕 兕と同じ野牛の角を以て作るさかつきなり罰爵なり。兕ハ野牛一角アリ青色重サ千斤

斛 四升 と豆といふ四豆を區といふ四區を斛といふ量の異名なり 六斗四升ノ量

概 黒 漆の尊に朱の帶を腰につけ絡へり

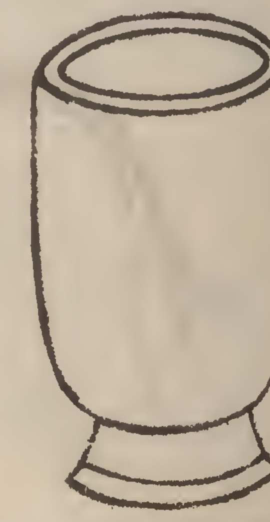




散 觶 の飾なきものをいふ

庾 二穀 を實るに用ゆ量る器甄土を以てこれをつくる

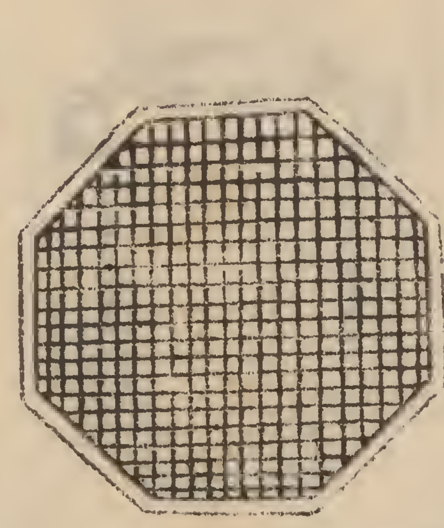
鳥彝 鳳 鳳凰を畫く祭祀には鬱鬯をもる雉を畫き虎を畫き雞を畫く黄彝斝彝といふこれ同じ類

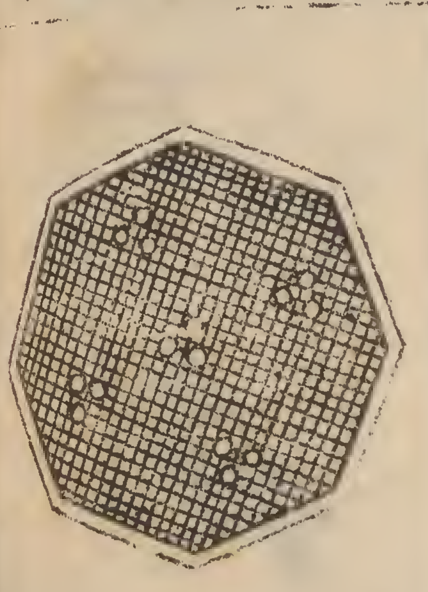


犧尊 尊 のまん中に牛と飾られ赤漆を用ゆ象尊山尊壺尊大尊著尊も同じ数なり

疏布巾 尊の冪にして二尺二寸天地をまつるにこれを用

畫布巾 五色の雲気と画き六彝の冪とす二尺二寸の幅にして圓なり

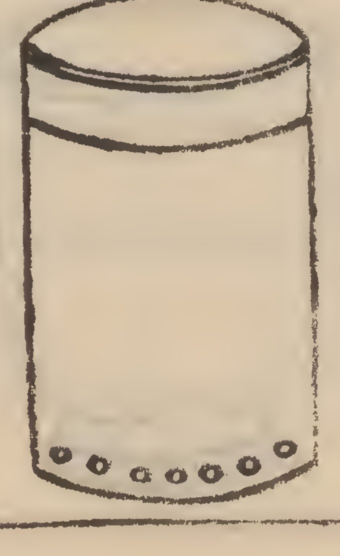




籔 竹 をもつて作る十斗を斛といふ十六斛を籔といふ

甑 土をもつてこれをつくる厚さ五分唇一寸七穴を穿てり

柶 木をもつて作る彝と和する器長一尺博三寸〇和ニ云 杓子ノ類ナリ



鉶 金 と同じ用となれなりよくかさと金とりよし

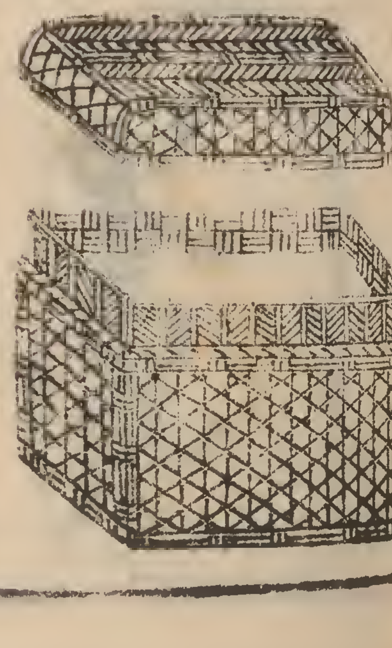
登 大 羹をすくひもる径一尺八寸高さ二尺四寸し

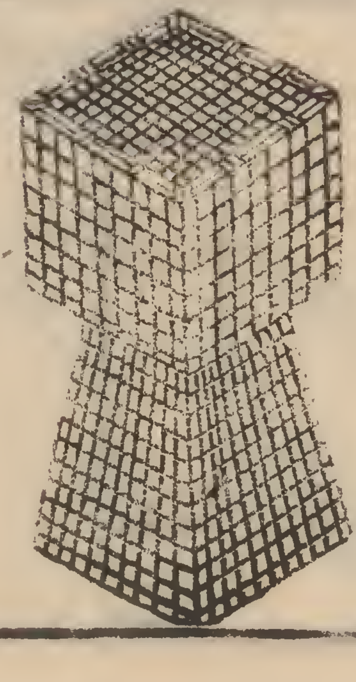
鑊 肉 と煮および魚腊とうるの器なり

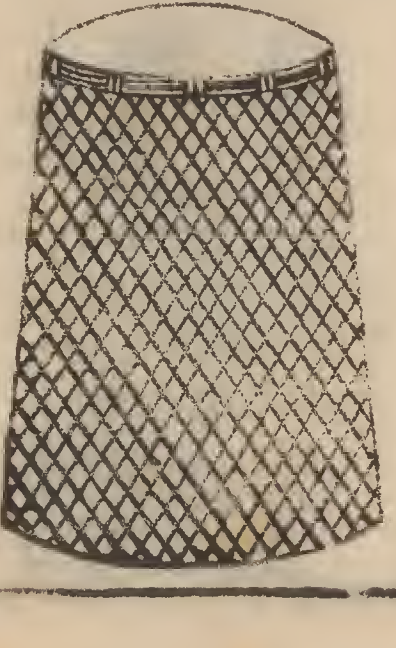
筐 竹 をもつて作る長三尺廣一尺深六寸足の高二寸

篋 竹 をもつてこれをつくる祭祀のうつはもの也

筥 篚と同じ製形圓にして長し五升を受くべし



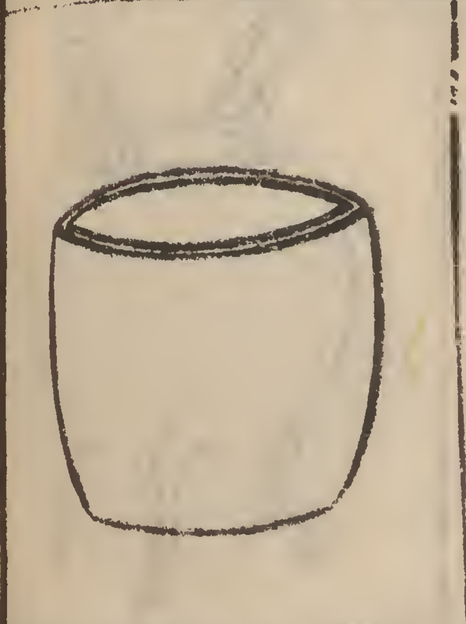




坫 形
豆に似て卑し爵を致し又尊を兼る器和にいふ盃臺の類なり

斝彝 耳
斝と刻て稼を畫て楞としてこれを酌し

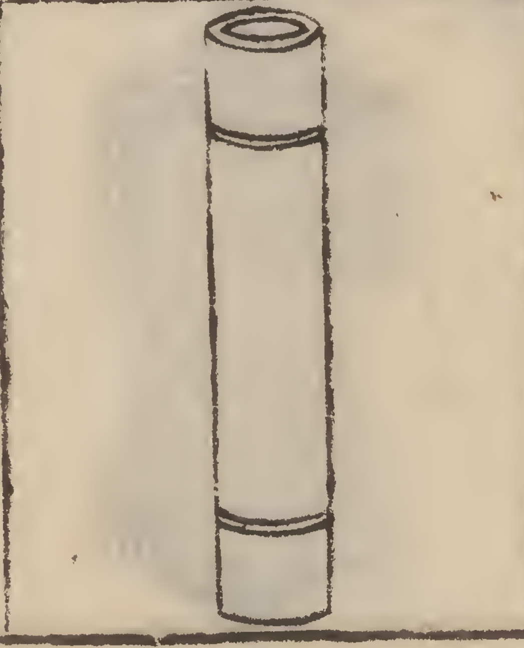
著 高さ
三尺口の徑一尺五寸足の徑二寸八分盥とうをて洗ふ水とする器物なり



人節 全と
以て苔とし人の圖を畫て土國としてこれを用ゆ

管節 竹を
節として公卿大夫采地の吏都鄙に用ゆ

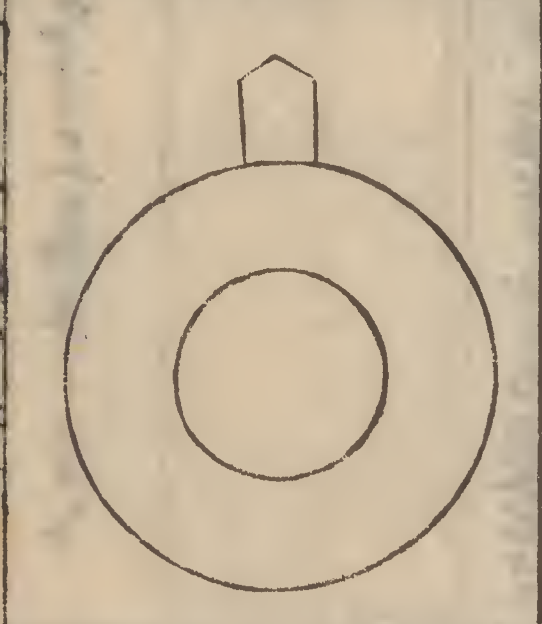
虎節 全を
以て節として虎の形を畫て山國としてこれを用ゆ



太尊 木
にて作るなるさ四尺六器を上に奠るものなり

脩 卣
と同じ廟にて用る中尊なり

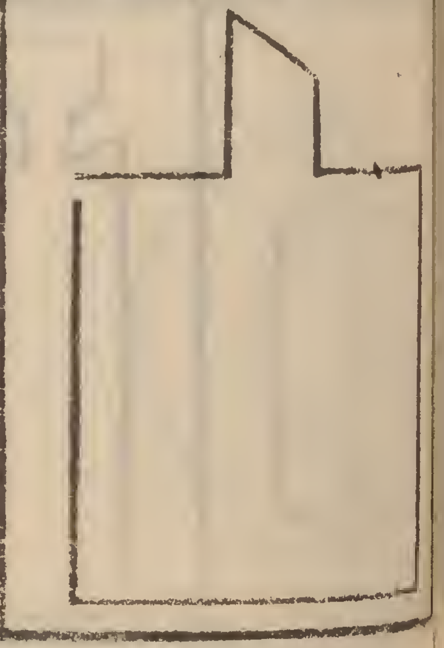
穀璧 鄭
圭璧 圓
なるを璧といふ銳きを圭といふ天地につかふるなり璧を執位によりて一ツハちがふなり

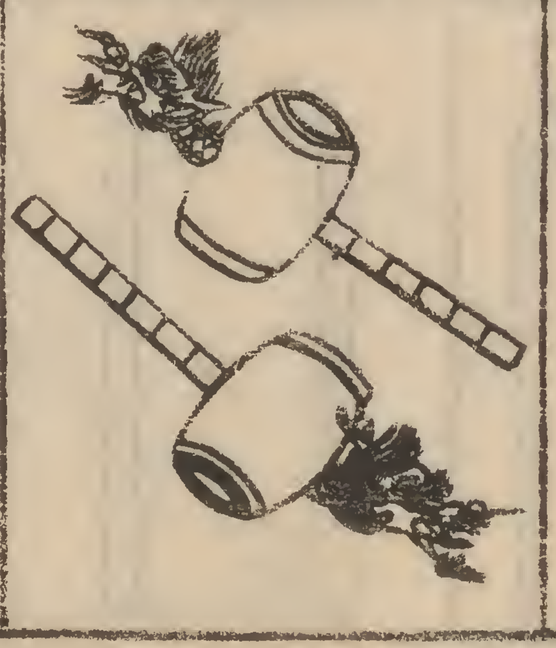


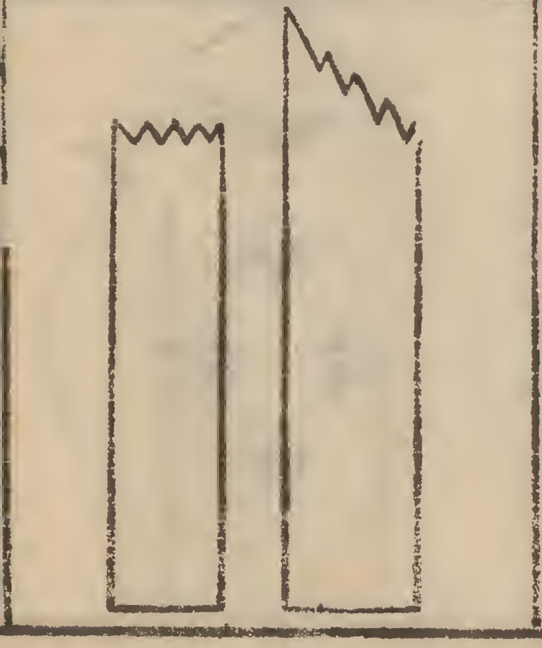
璋邸射 半
圭と璋といふ斜に刻て邸と邸射といふ

邊璋瓚
中璋
邊璋ハ七寸中璋ハ九寸山川の祭に灌圭瓚大璋瓚も同じ類なり

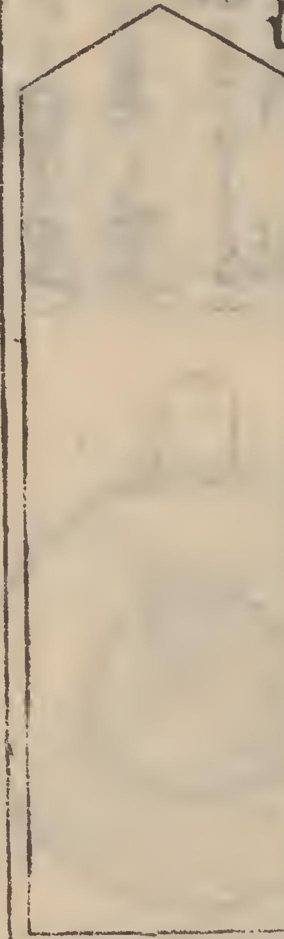
牙璋 中璋
牙璋ハ軍旅に用ゆ中璋ハ小軍旅に用るなり







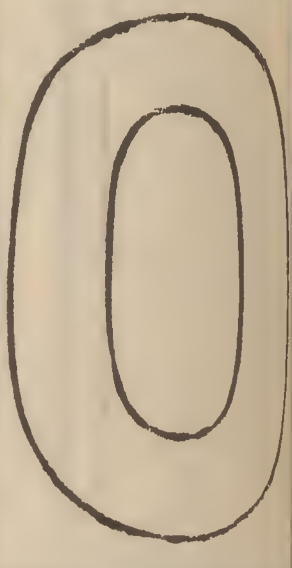
青圭 長九寸上各半寸を剡む



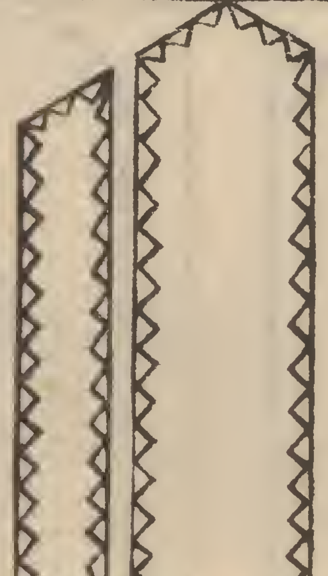
信圭 諸侯信圭をとる長七寸
人形を琢て信を飾とん

躬圭 伯ハ躬圭をとるし長七寸
人形を琢る躬を飾とん

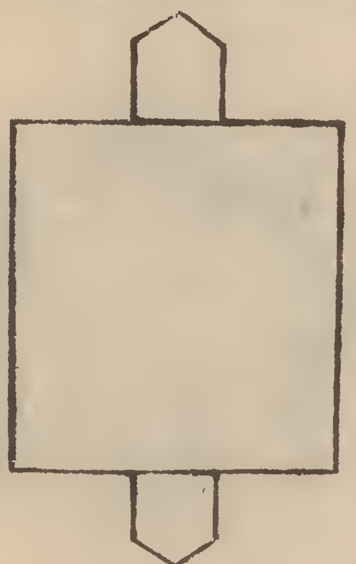
璧羨 長三寸



瑑圭璋 長八寸覜聘とて太夫より衆来て覜へる時なとにも用ふるなり

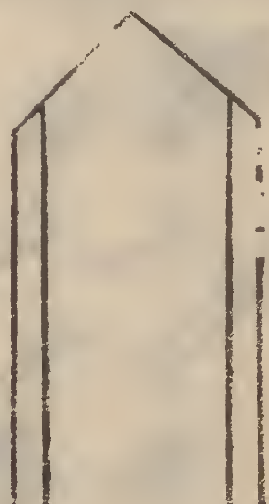


兩圭有邸 長二寸半にして外方にて邸とるなり



鎮圭 王ハ鎮圭をとる也長一尺二寸四の鎮山を以て琢て飾とん

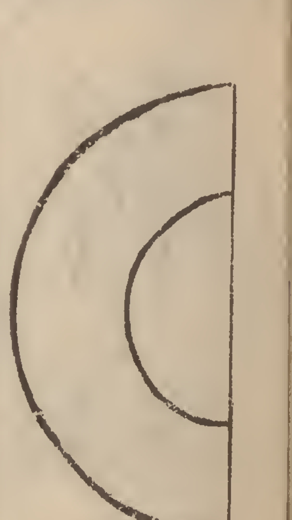
桓圭 公ハ桓圭をとる也長九寸雙植を琢て飾とん



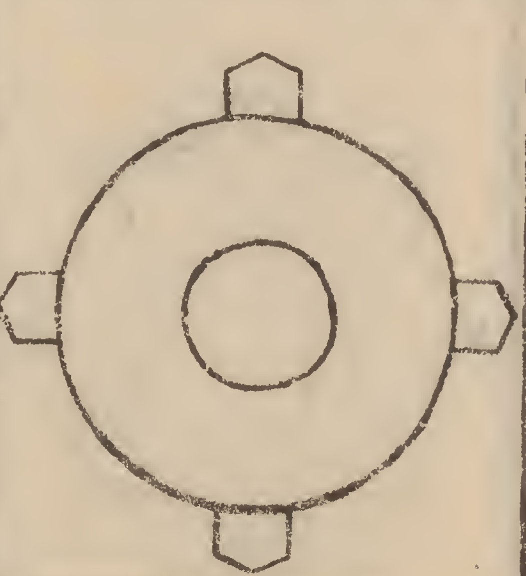
大圭 長三尺天子これを服る也

冒圭 長四寸天子以て諸侯を朝

玄璜 北方乃半璧を璜とらふ



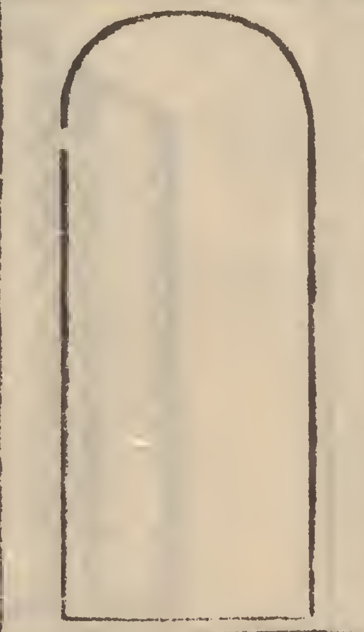
四圭有邸 玉璧ハ六寸中に居て四面各圭を琢たく長一尺二寸



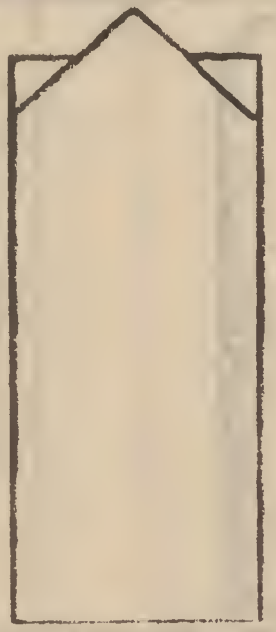
蒼璧 天と禮するに用也圓にしてまとり九寸わつさ二寸

黄琮 地を礼するに用ゆ 毎角一寸六分に剡る 長け八寸 厚一寸

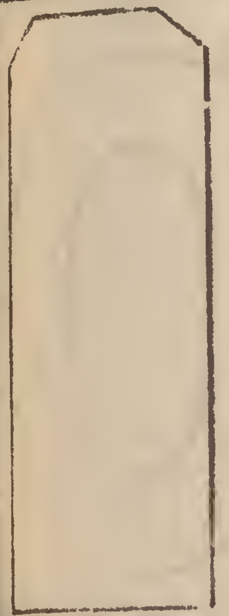
琬圭 長九寸 德と治め好を結ぶ 琬ハ圜といふの義し



琰圭 長九寸 上に鋒芒あり



大璋 長七寸 諸侯女を聘するに用ゆ



赤璋 [illegible] 火の色にかたどり半圭を璋とす

白虎 西方 金の色に象る 長九寸 廣さ五寸 伏虎を刻む 高三寸

蒲璧 諸侯の封圭これを執て贄とし 以て瑞と王に合するなり

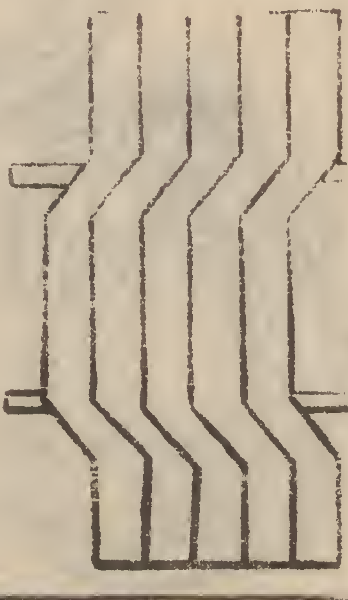
組琮 組をもつて琮を繫く 天子七寸 宗后ハ五寸 以て權とす

大琮 一尺二寸 内鎮とす 宗后これを守る

穀圭 長七寸 難を和し女を聘ス 信なり

穀璧 男 覲の時諸侯王に會同するに各執る所の圭あり 是ハ男の執る所 璧ハ位

繅藉 天子の繅藉五采の文の繅を以 玉と薦木を中幹とし 五章衣を以て畫なり

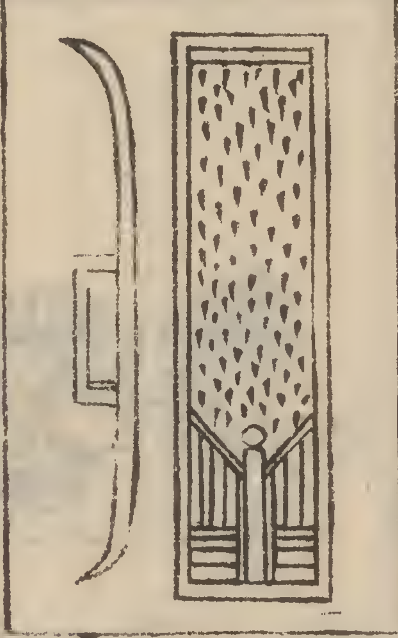


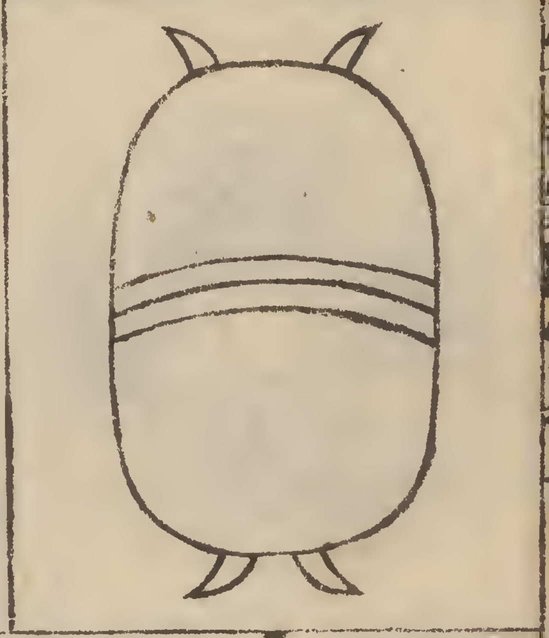
繅藉 諸侯の繅藉三采の文乃繅にて木を中幹とし 二章衣を以て文と畫なり

蒲穀繅藉 子男の位ハ二采こ朝上と同し

璊玉瓏 玉の赤色と瑞とを以て瓏ハ琢乃臭なり

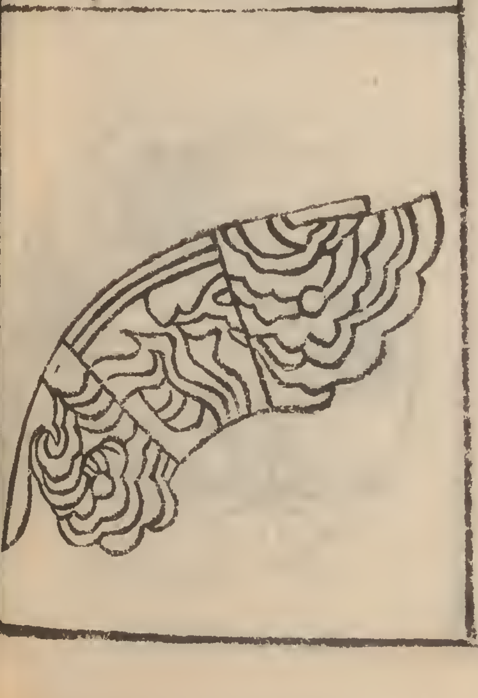
拱璧 径一尺蒼文玉館蜡中に雲氣とつくるなり





璊玉蟠螭

水蒼珮 これ大夫の佩る所の玉こ山玄く水蒼きハ玉の文なり

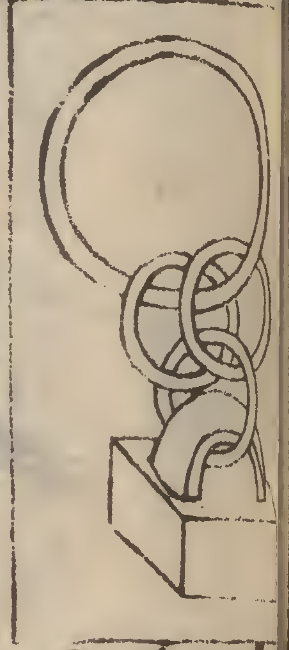


連環印鈕 鈕ハ壽亭侯乃印及ひ関南の司馬皆此の鈕なり蓋鈕ハ印のおもてなり

鹿盧 佩玦乃環なり

玉環玦 玉の彫そうと琢と以花ハ筆の詢読えい

玉辟邪 書なり此器ハ大康の墓中より出る一宋の物なりと辟邪ハ乃獬なり



二寸六分長八寸三分天地四方にかたどりて天子ハ神と祀し諸侯ハ天子と享れ

琫珌 玉の玉三代前の物也傍よ高亭墓中の物ハと琫珌大小圖の如し

瑁玉螭虎環 環の圓径三寸五分厚さ五分色赤内白く微り五蟠虎の形とつくるなり

蒼玉玲　上

瑴玉充耳　右

黄玉聊　左

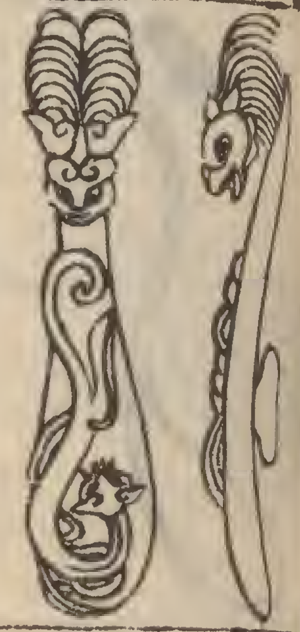
瓏玉馬　黄玉八分馬首高四寸八分身高四寸一分長五寸四分玉色微青月紀紛抜し　コレ玉ニテ作タル人馬也

玄玉驄　唐の馭式し玄宗玉を琢て式とし也紋の間に真ち

瓏　環の属し虎の形ヲとわらると璩とすりも此意也

佩刀柄　礼記に左ニ刀礪と佩ことあり是ならなのつるなり

漢[illegible]鉤　長六寸二分潤さ九分玉色ハ倉白黒古琢璉として子母の螭廻顧状しこれハむかしに佩て紋ようくるものし



銅虎符制　虎符高さ五寸五分長二寸四分高八分潤さ八分割て二とし二斤相合し漢の時これを用

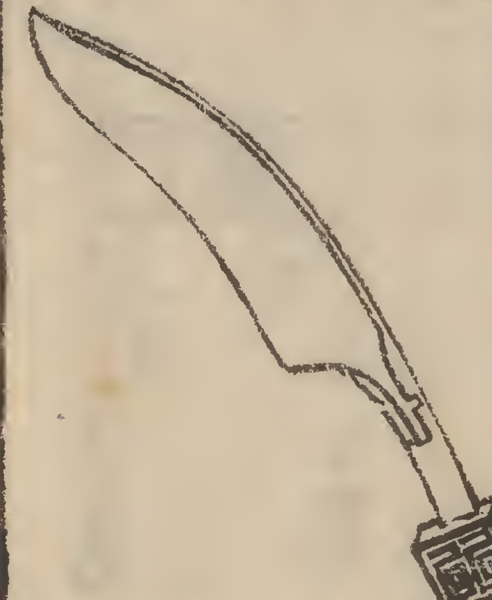
海馬狻猊鑑　漢帝氏含を従て初の物と成り陰陽日月のうちに則て鏡の鑑とも鑑とおもんしられ

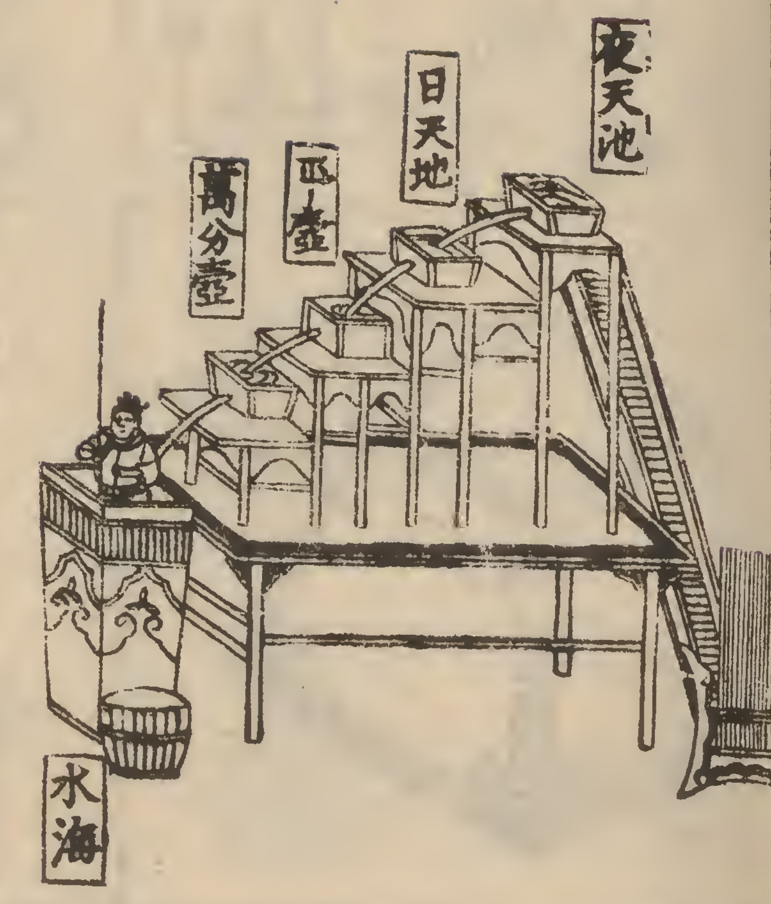
博山香爐　銘八字

天與子孫富貴昌宜

漢朝故事、諸王出閣則賜博山香爐。晉東宮舊事曰、太子服用則有博山香爐一。一云爐象海中博山、下有盤貯湯、使潤氣蒸香、以象海之回還。此器世多有之、形制大小不一。

漢刀筆　形刀匕の如し柄の間に纓と系繋て佩る蓋し古人簡牒を用ることはこつうきざくて書を削しなり

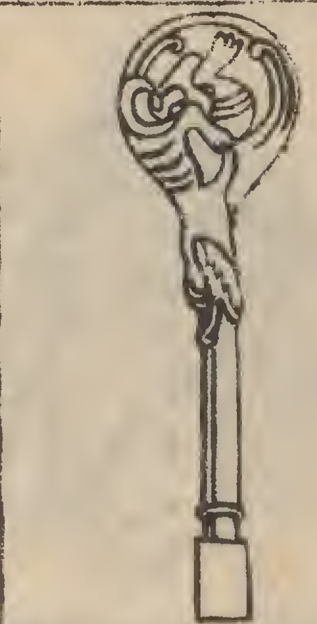




今制蓮漏圖

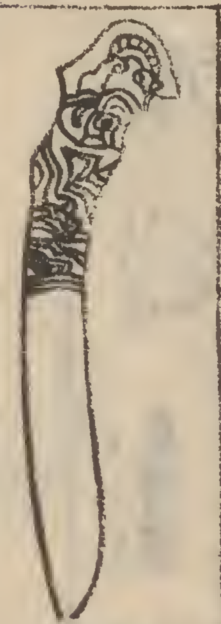
漏刻ハ黄帝はじめて制すひて晝夜をさだむ周の挈壺氏晝夜を百刻と然るに冬至ハ晝四十刻夜六十刻夏至ハ晝六十刻夜四十刻春秋二分ハ晝夜各五十刻漢哀帝の時改て百二十刻とし梁武帝ハ大同十年又改て百八十刻とし唐の時にいたりて晝夜百刻として古制に遵ふ其法圖のごとし宋朝もこれを用ふる唐のごとしその法晝夜を百刻とし十二時にわかつ毎時八刻二十分毎刻六十分水をとゝのふること二斤八両其四十八二ツ一氣に當り一歳總て二百十六万分悉く其上に刻む總烏水を別て下りて蓮心を注く其を浮て上に刻むをしるし

杖頭 此制費長房か壺公に從て遊ふ時其帰るに及て杖を投られし龍と化しけるに法とれり



漢龍提梁 高さ二寸三分長六寸三分闊八分重八両七銭衣服の飾漢代天子の物なり

削 長一尺重さ三両博一寸あり

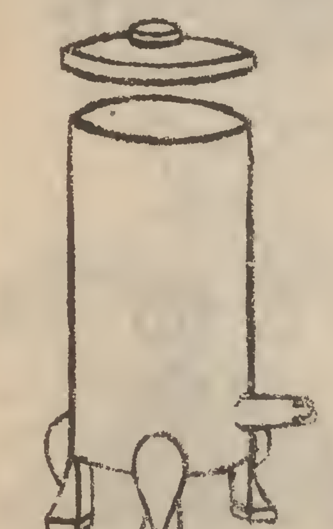


刀圭 方さ廿と十分みなもの かゆうて方一寸し木截とすなりて漢ゟと変られ

量

量ハ黄鐘の龠よりおこるその秬黍千二百を容て龠の中に實しむ井水とりて準ずる十龠を合とし十合を升とし十升を斗とし十斗を斛とし衡も亦一龠の重十二銖二十四銖を積て一両とし十六両を斤とし

丞相府漏壺 高さ九寸半深七寸半徑五寸八分五升を容る銘井一字あり漢乃制なり



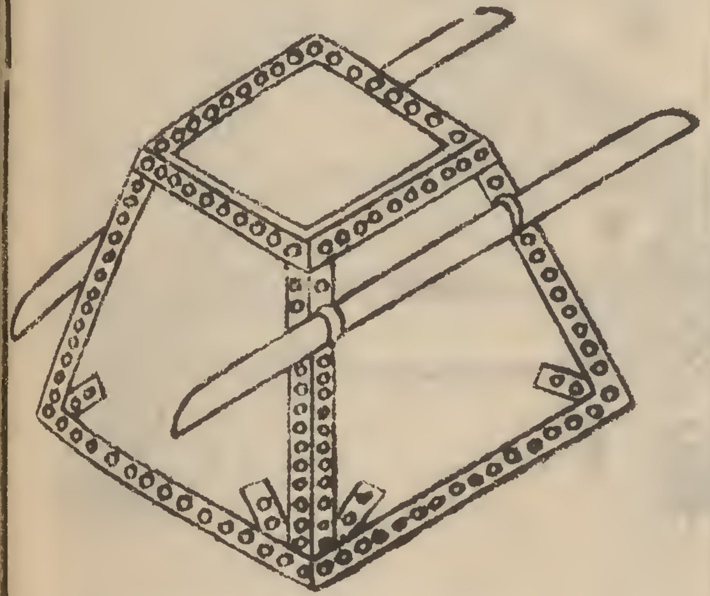
古斛（こくす）

升八寸合量から斗八十升量し斛八十斗量し角ありて多ぐのおほふれぬい平なれずこなりてし

今斛（こんこくす）

まれのうるくちに古今わきとくをしうら八回し

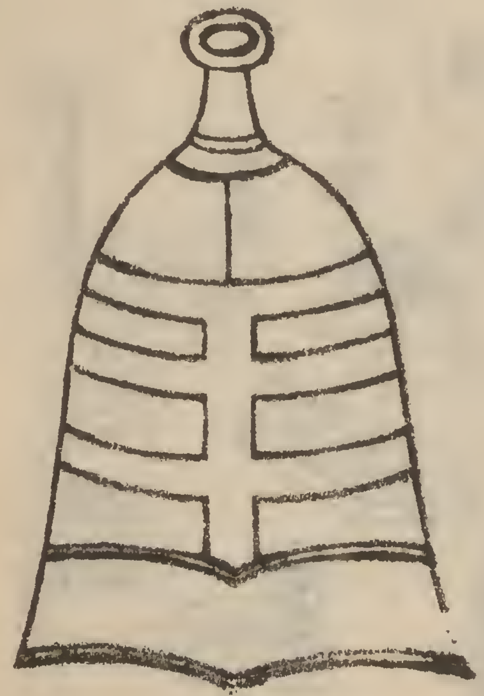
升斗斛（ますとますこく）繋し量の図をしてさへし



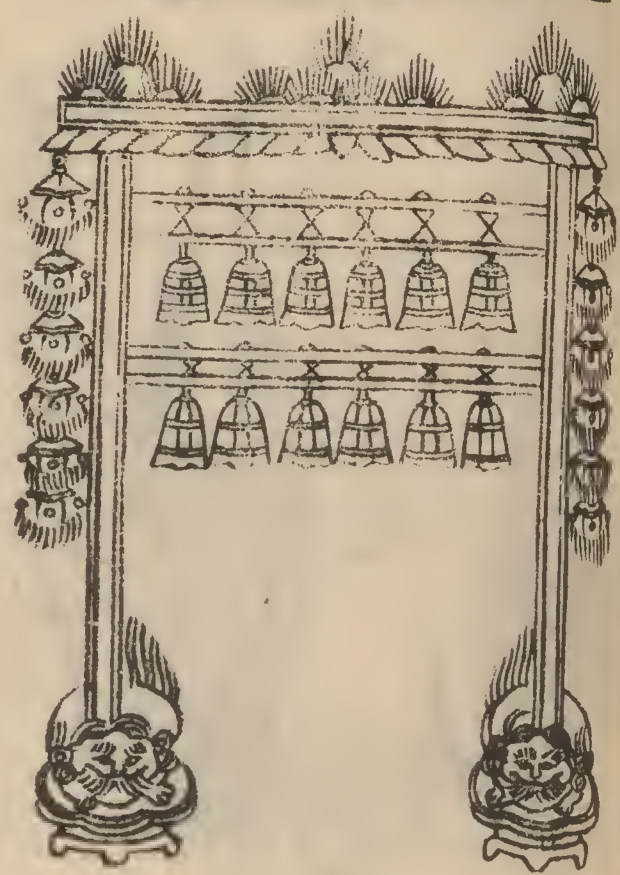
樂器（がくき）

鏞（よう）虞夏の時の大鐘といふ

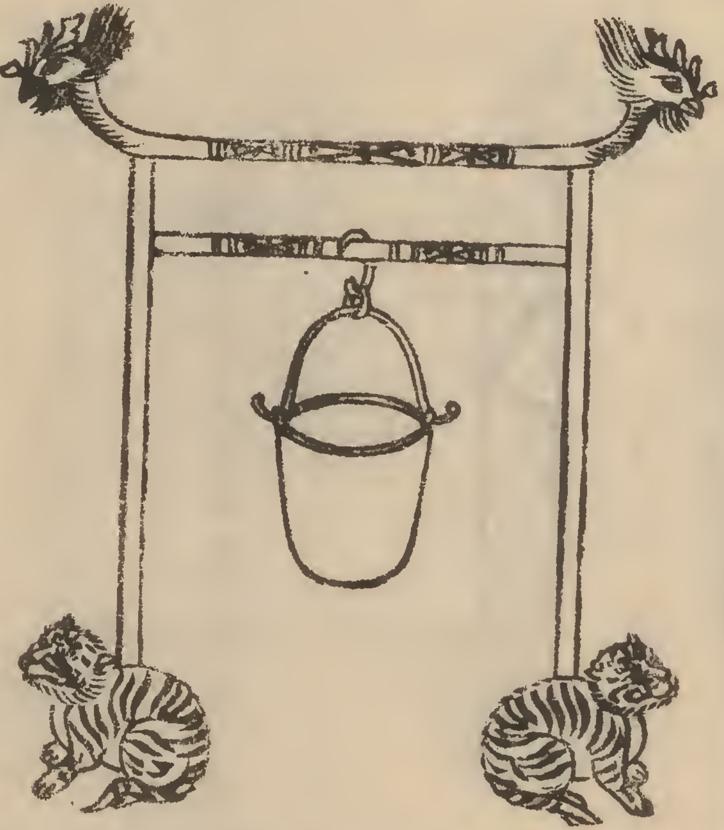
鎛鐘（はくしよう）八音金の属



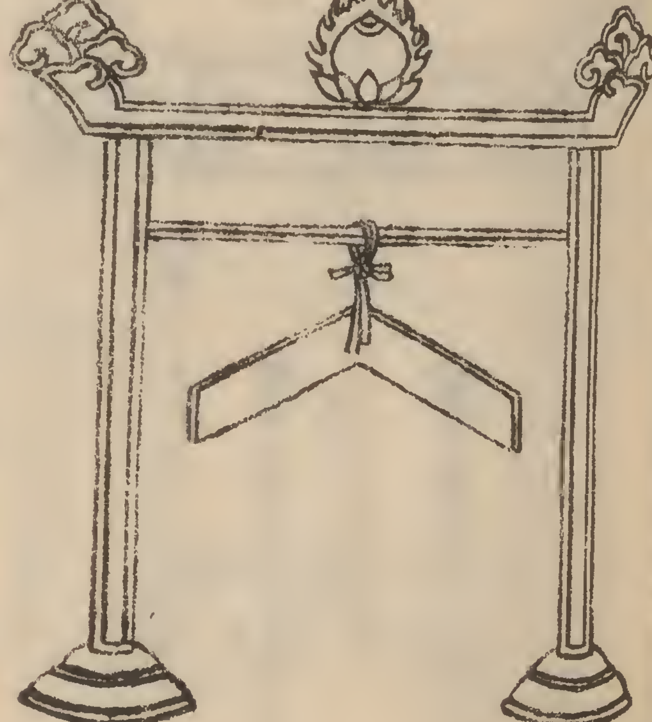
編鐘（へんしよう） 歌鐘（かしよう）



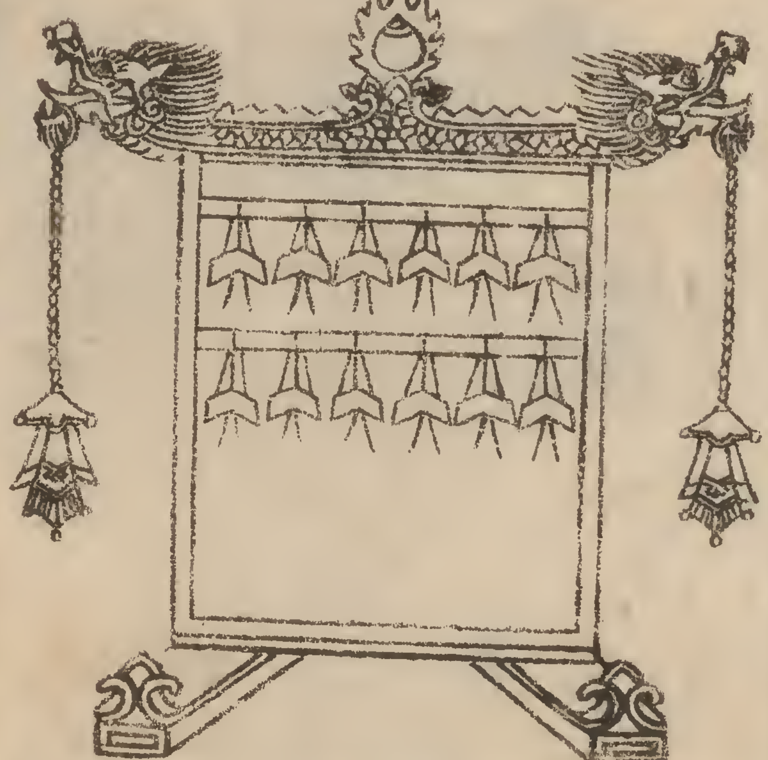
金錞于圖（きんじゆんう）



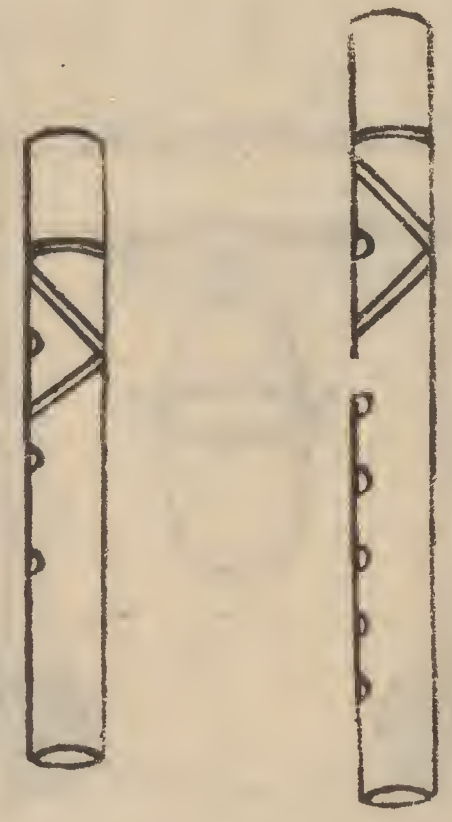
天球（てんきう）



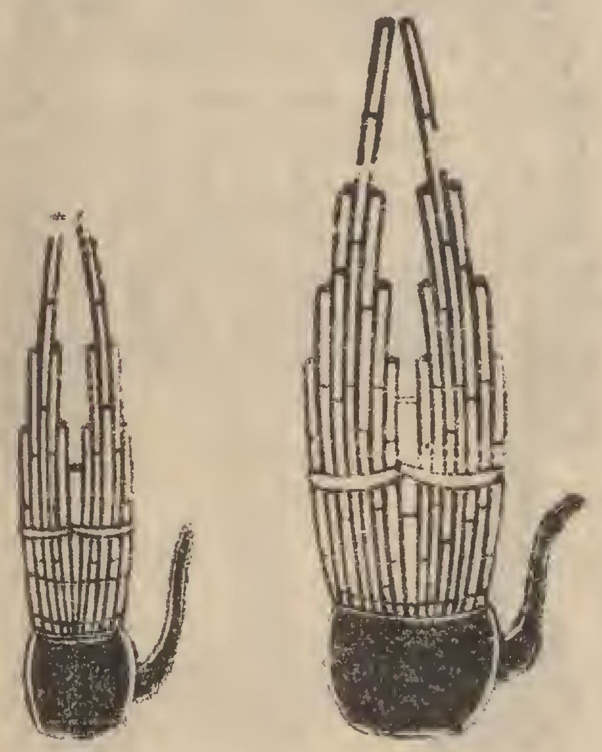
編磬（へんけい）



大小篪

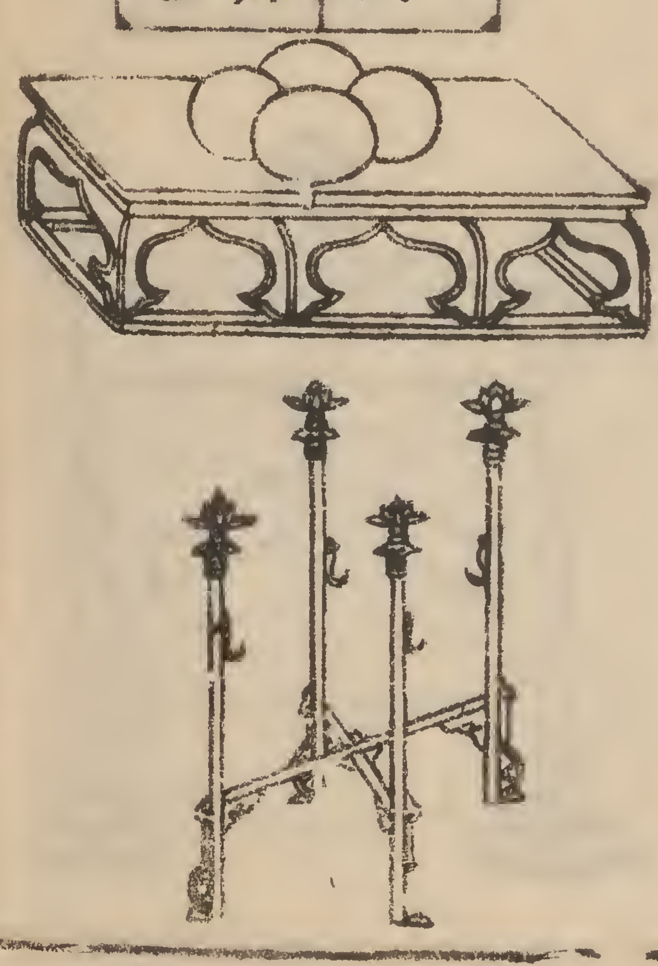


大小笙

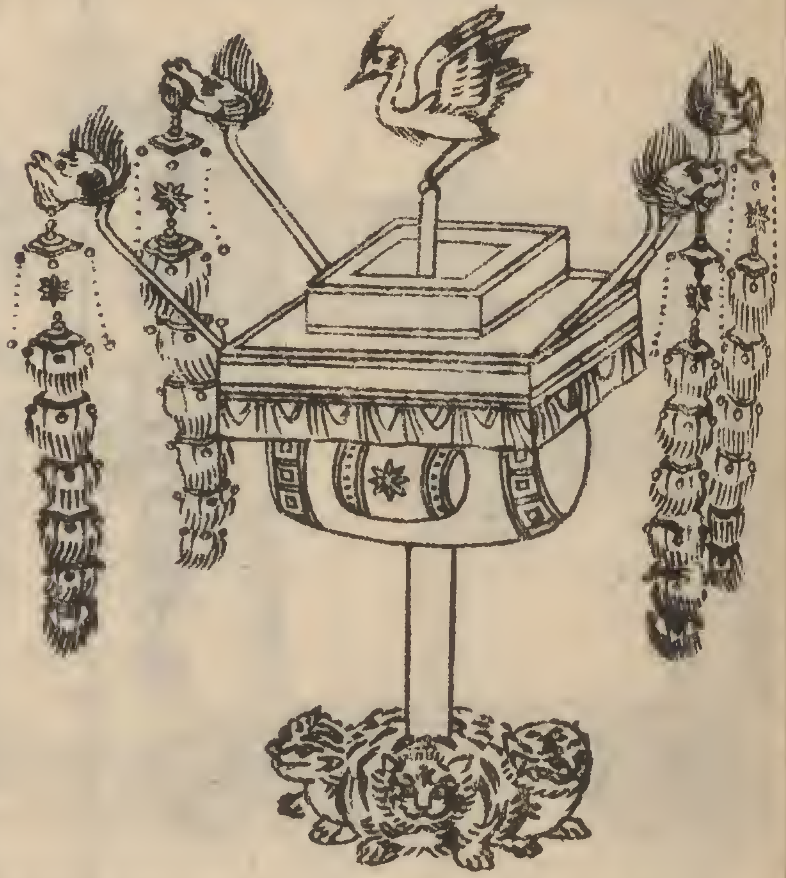


古缶

拊 鼓

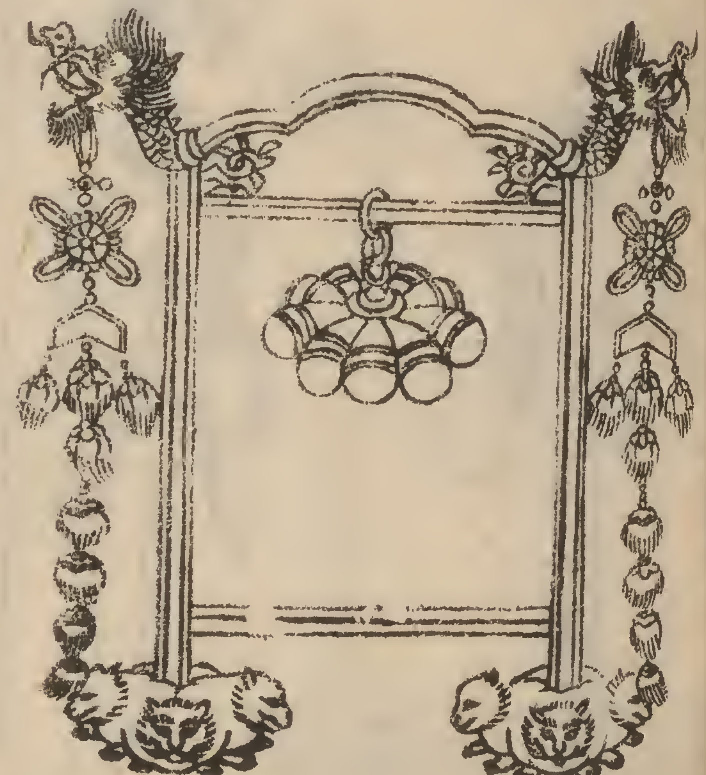


建鼓

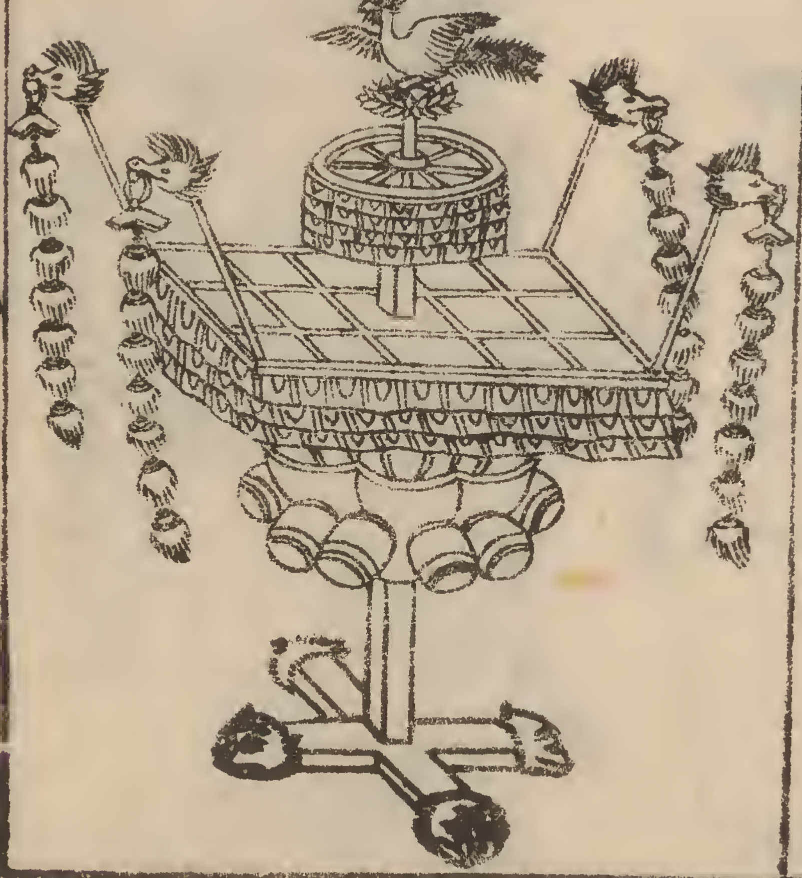


雷鼓

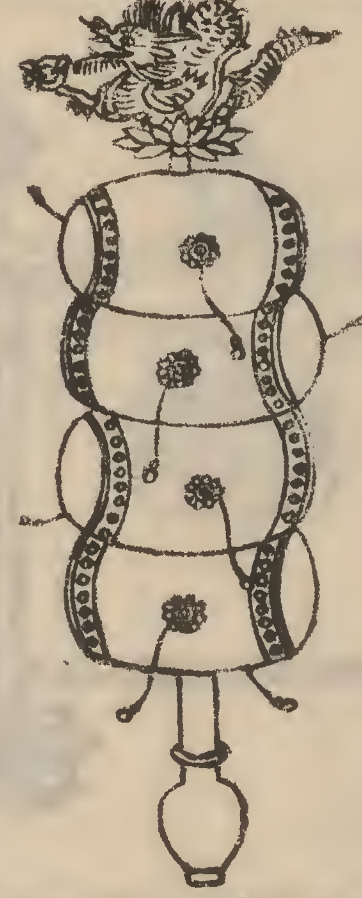
霊鼗



霊鼓

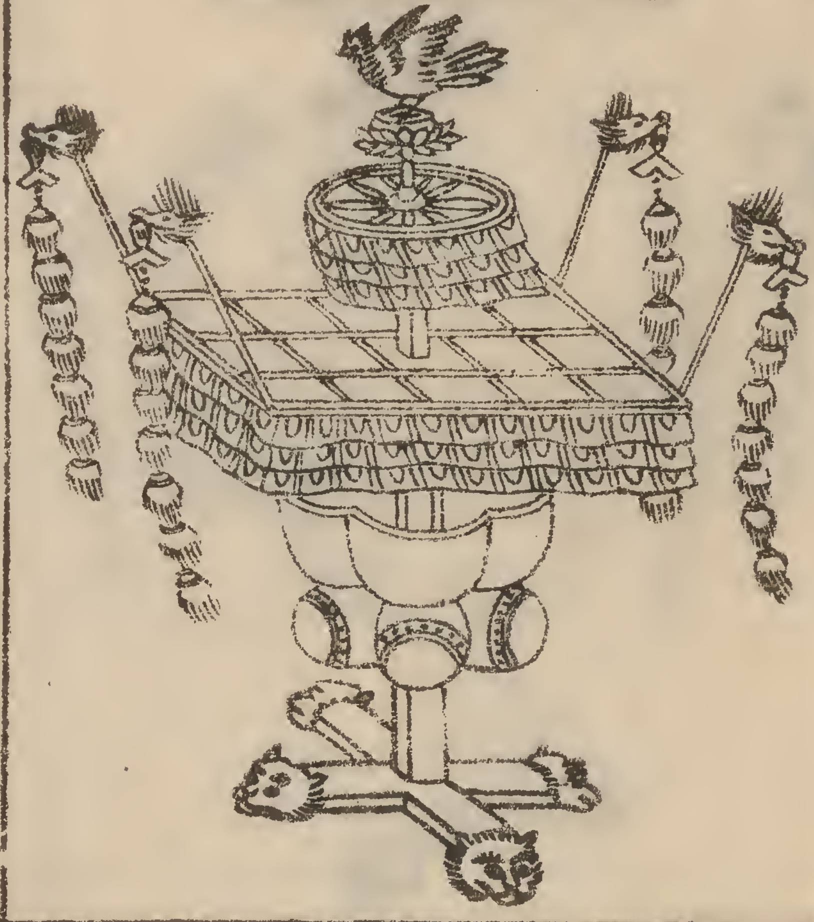


霊鼓

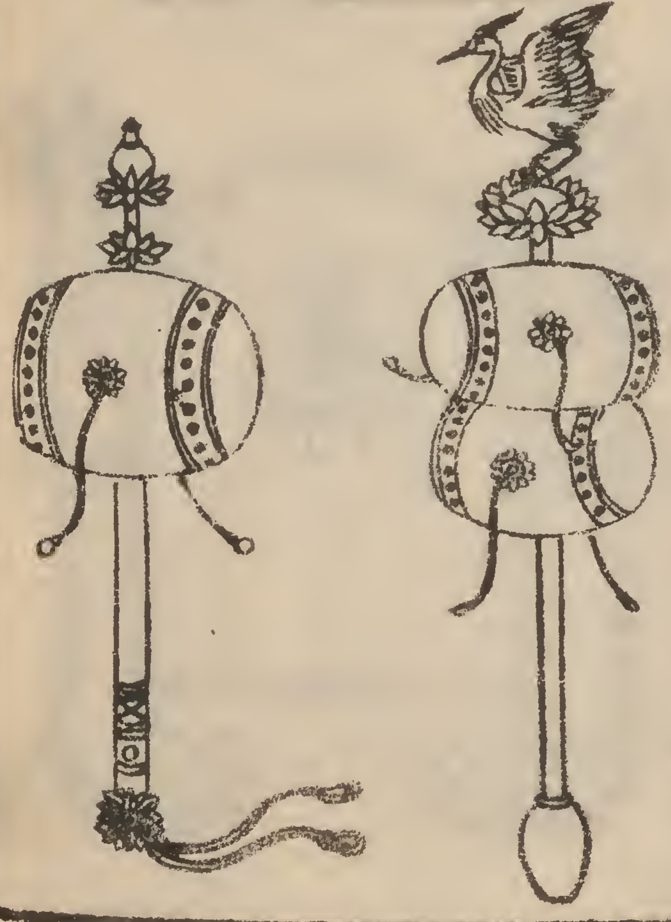


路鼓

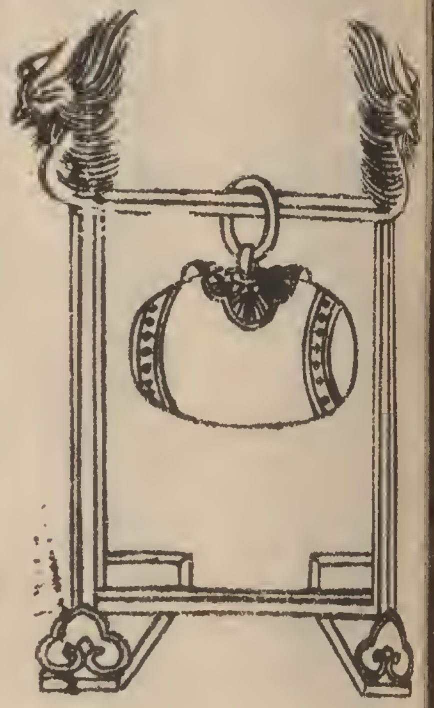
路鼓



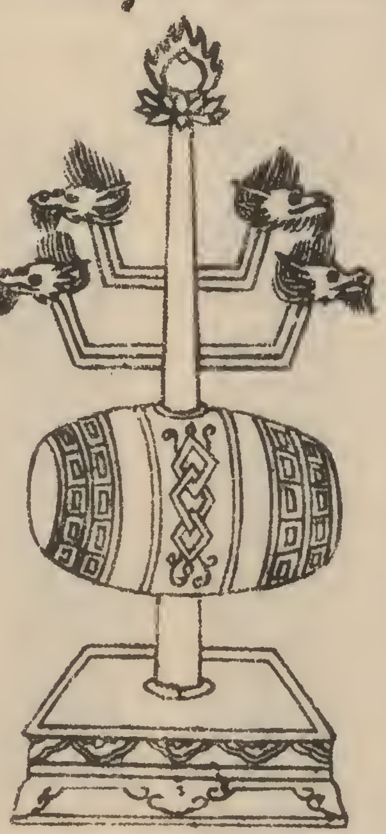
路鼓　鼗鼓



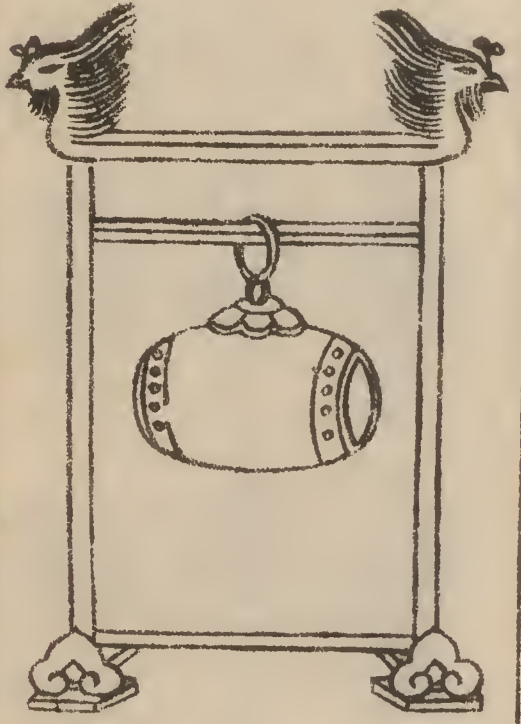
鼖鼓圖



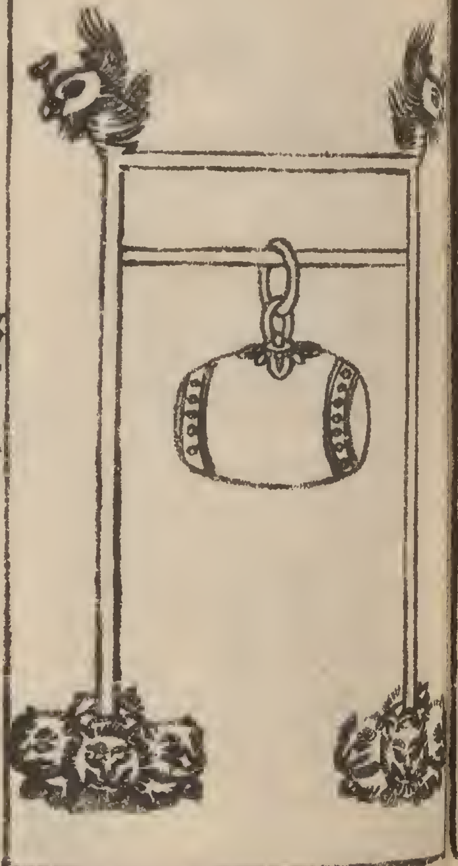
晉鼓圖



應鼓圖

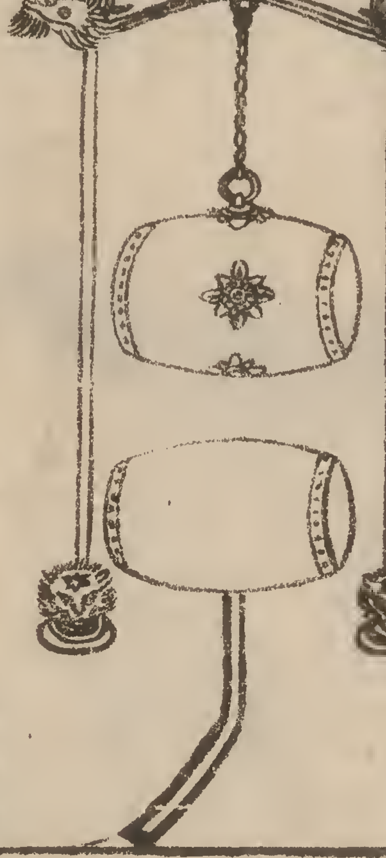


鞞鼓圖



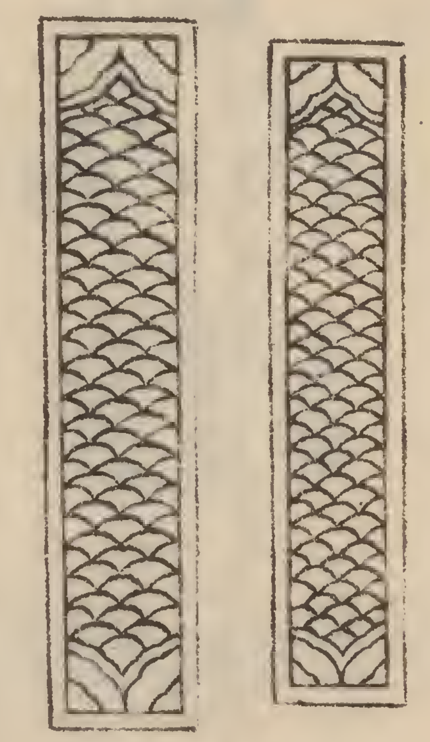
鼛鼓圖

鼜鼓圖

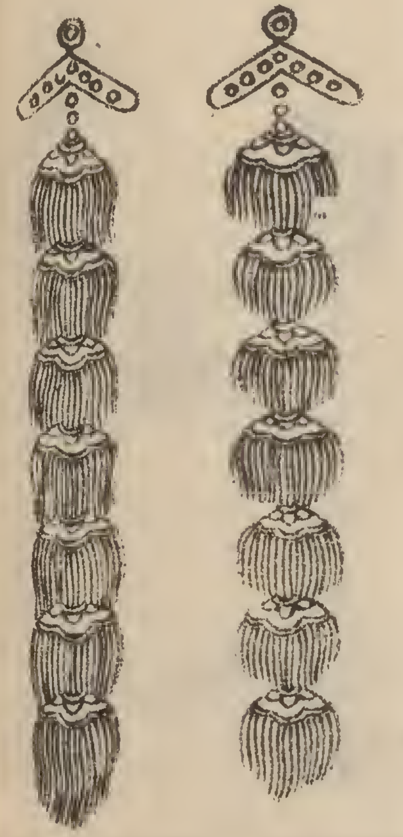


崇牙植羽

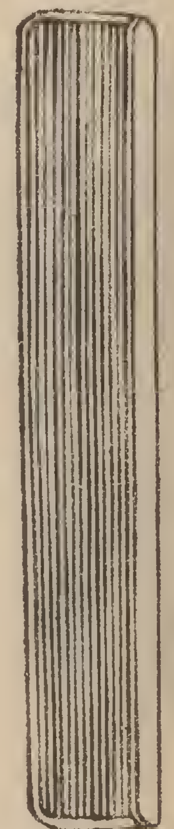
業



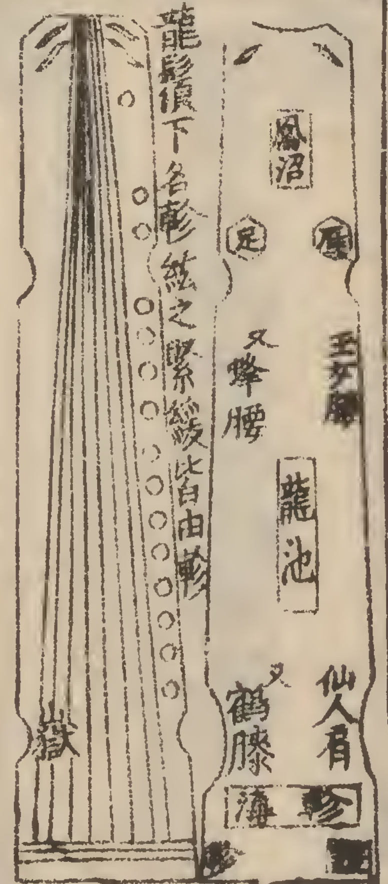
璧翣



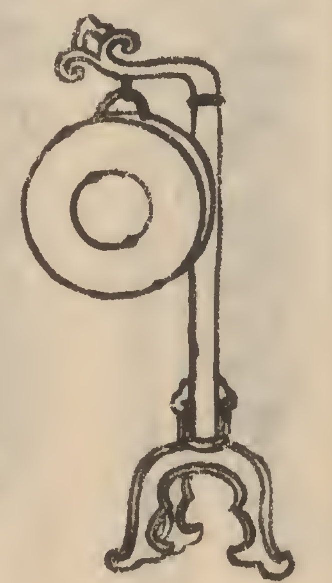
筑



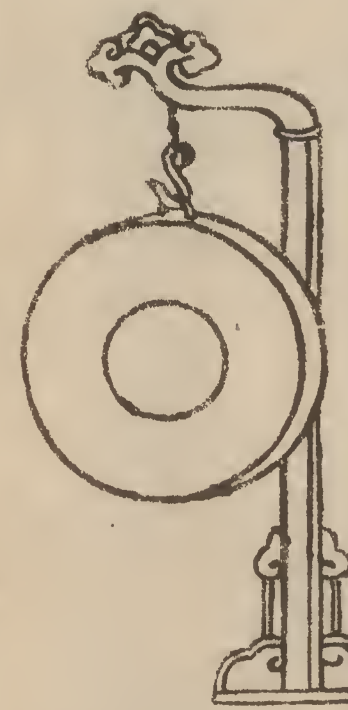
焦尾



點子



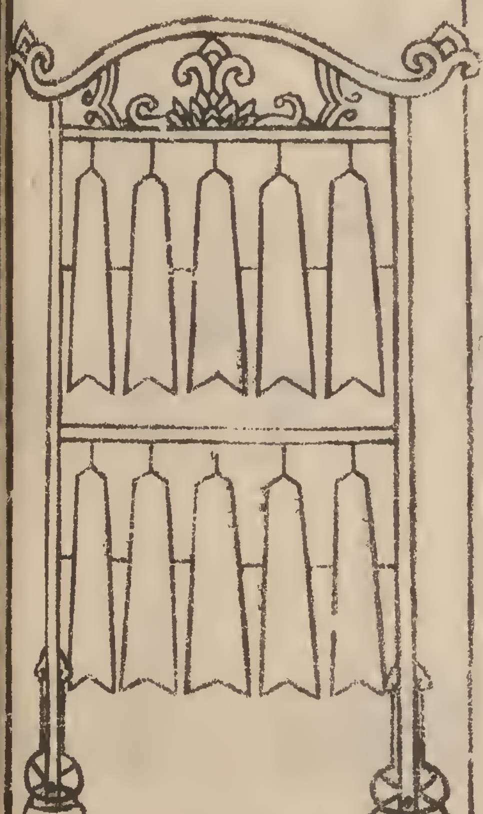
鉦鼓



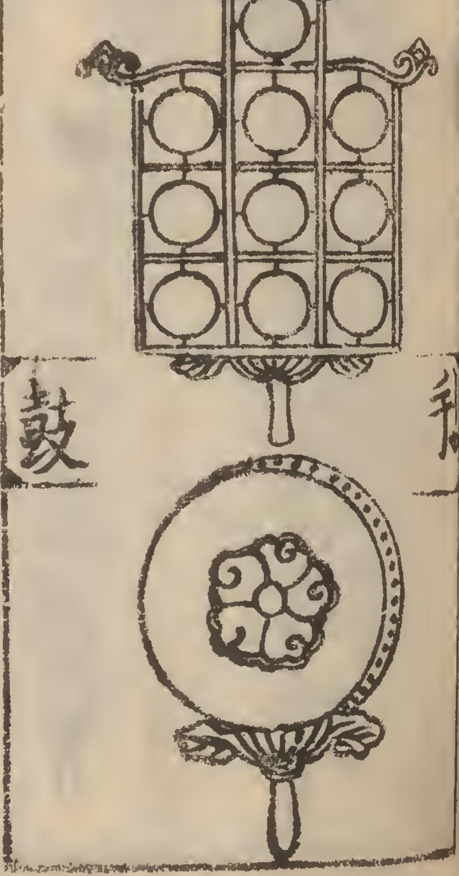
箜篌

柏板

方響



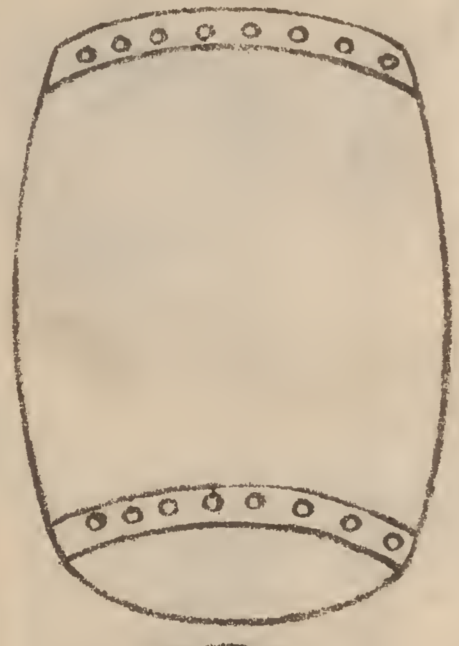
雲鑼



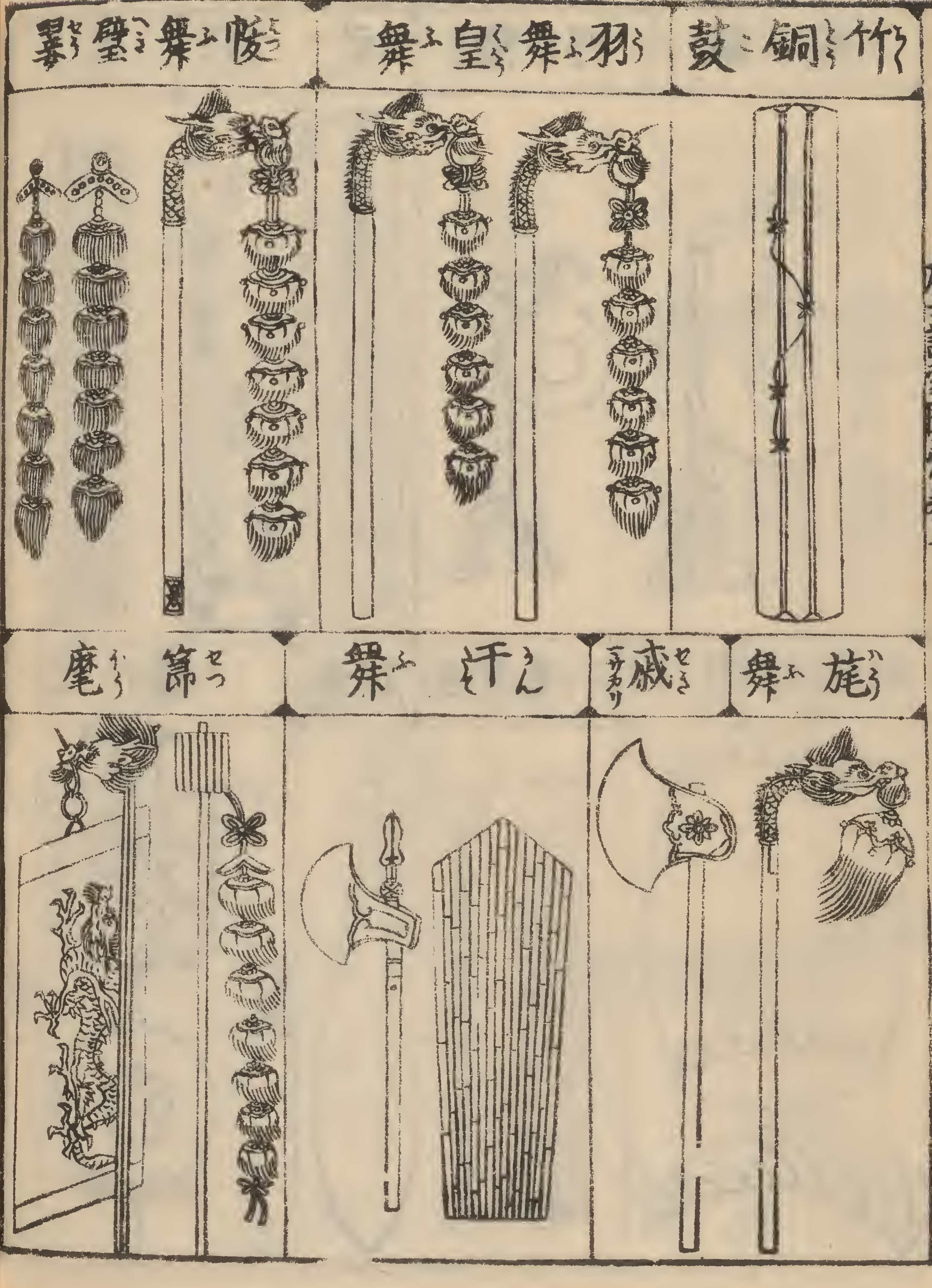
畫角

魚鼓簡子

土鼓



梧桐角

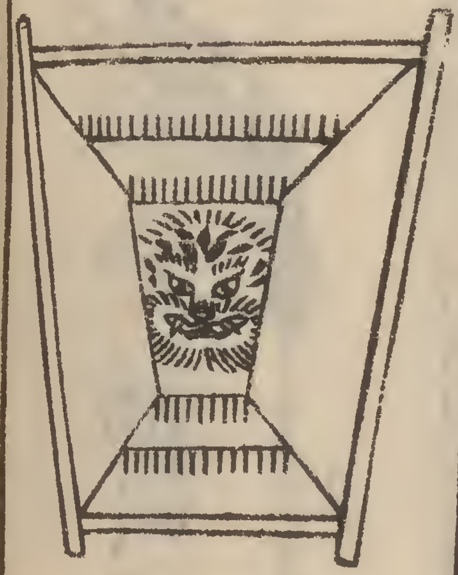

竹銅鼓
羽舞
皇舞
帗舞
璧翣
旄舞
戚
干舞
節
麾

翟
雉の毳羽をそつる
舞に執る物なり
纛
旌
相
應
牘
雅
金鉦
金鐃
射
侯
豻侯

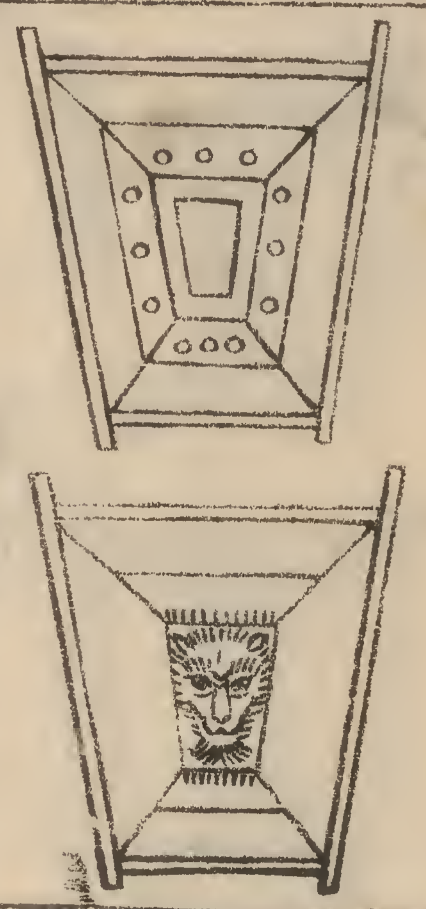
熊侯

大侯

麋侯



二正侯 獣侯熊首



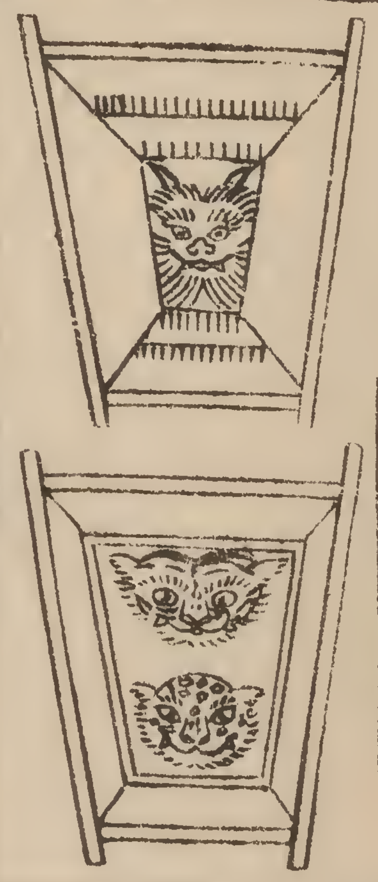
兕中

皮豎中

鹿中

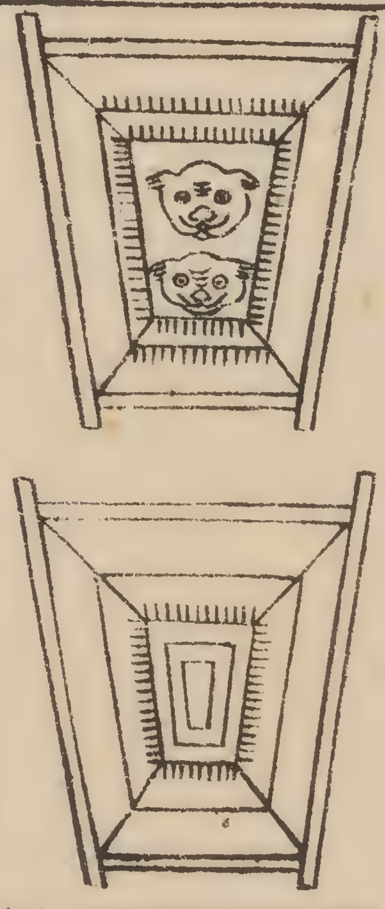
閭中

豻侯



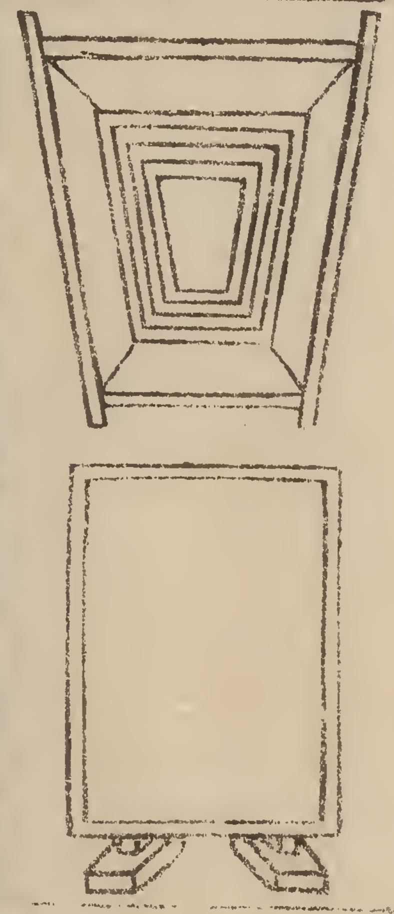
獣侯虎豹首

獣侯鹿豕



三正侯

五正侯



乏

虎中

390
.T8